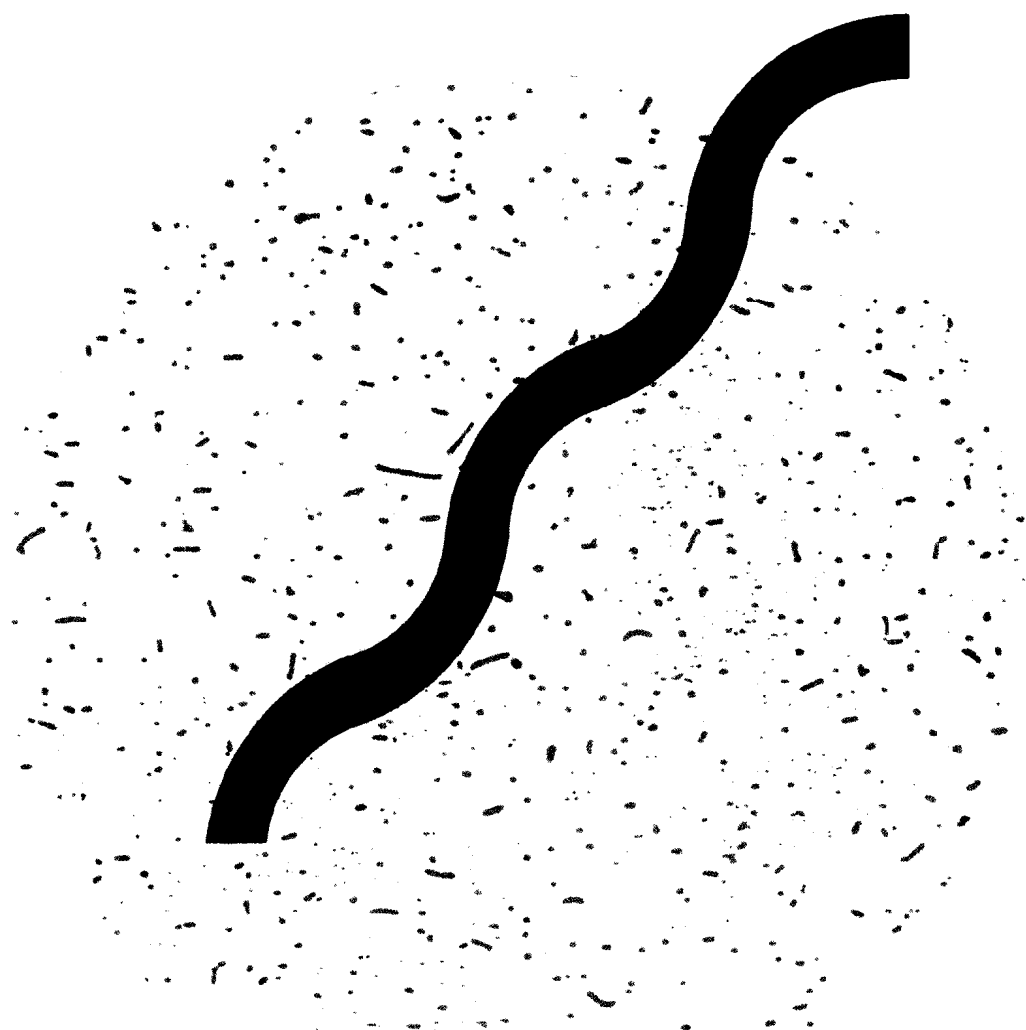


PORTATONE PSR-4500

取扱説明書



YAMAHA

このたびは、 ヤマハ・ポータートーンPSR-4500を お買い求めいただきまして、 誠にありがとうございます。

本書は、PSR-4500の魅力を充分ご理解いただけるよう、操作方法を機能別に解説したものです。
お読みになった後も、保証書と共に大切に保管して、わからないことや不都合が生じた際にご覧ください。

PSR-4500の特長

- ◆リアリティあふれるDASS(デュアル・アーキテクチャル・シンセシス・システム)音源による100音色と100スタイル。
- ◆オーケストラとソロに加え、デュアルボイス、アンサンブル、デュエットなどの効果を駆使して魅力のサウンドプレイが楽しめます。
- ◆迫力のステレオサウンド。
- ◆プリセット音色の各パラメーターを変更してオリジナルの音色作りが楽しめる、デジタルシンセサイザー。
- ◆プレイしながら操作できるローラーとピッチベンドローラー。
- ◆パネル設定を瞬時に再現できるレジストレーションメモリー。
- ◆音に残響を付けるデジタルリバーブ。
- ◆押鍵の強弱表現を正確にキャッチするタッチセンス機能付き鍵盤。
- ◆オートベースコード機能を3モード(シングルフィンガー、フィンガード、マニュアルベース)搭載。
- ◆ドラムパッドを押すだけで、40種類の打楽器音と16種類の効果音が楽しめます。
- ◆オリジナルの伴奏パターンを作成できるカスタムアカンパニメント。
- ◆演奏をパート録音・パート再生できるミュージックプログラマー。
- ◆RAMバックに演奏データをセーブ&ロード。
- ◆音楽表現の可能性が限りなく広がるMIDI機能。

もくじ

	ページ
音を出す準備をしましょう	2
デモ曲を聴いてみましょう	4
PSR-4500早わかり	5
音色を選びましょう	9
音色に効果をかけましょう	13
オリジナルの音をつくりましょう(デジタルシンセサイザー)	16
パネルの状態を記憶させましょう(レジストレーションメモリー)	19
ローラーとピッチベンドローラーで多彩なプレイを楽しみましょう	20
リズムを鳴らしましょう	22
オートベースコードを使ってみましょう	24
コード早見表	27
打楽器の音を出してみましょう(ドラムパッド)	29
オリジナルの伴奏パターンをつくりましょう(カスタムアカンパニメント)	31
演奏を録音してみましょう(ミュージックプログラマー)	35
演奏データを保存しましょう(RAMバック)	40
オプション(別売)のご紹介	42
レッツ・プレイ	43
MIDI	45
MIDIインプリメンテーションチャート	47
故障と誤りやすい現象	48
仕様	49
MIDIデータフォーマット	50
アフターサービスと保証	裏表紙

音楽を楽しむ エチケット



これは電子機械工業会
「音のエチケット」キャンペーン
のシンボルマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使用するのも一つの方法です。音楽はみんなでお楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

末永くご使用いただくためのご注意

こんな場所には置かないでください。



- ・暖房器具のそばや直射日光が当たる場所など、極端に温度が高い場所には置かないでください。また、湿度が高かったりホコリの多い場所も避けてください。

ラジオやテレビから離してお使いください。



- ・ラジオやテレビなどのすぐ近くでご使用になると、ラジオやテレビ側で雑音を発することがあります。十分に離してお使いください。

衝撃を与えないでください。



- ・本体を落としたり、重いものをのせたりしないでください。
- ・ボタンやスイッチ類に、無理な力を加えないでください。

使用後は



- ・必ずパワースイッチをオフにしてください。
- ・長い間使わない場合は、電池を抜いておいてください。
- ・電源アダプターのプラグは、電源コンセントから抜いてください。

お手入れは



- ・柔らかい布でから拭きをしてください。
- ・汚れがひどい時は、軽く水に湿らせた布で拭いてください。
- ・アルコールやベンジンなどの溶液は、本体の外装を傷めますので、絶対に使わないでください。

音を出す準備をしましょう

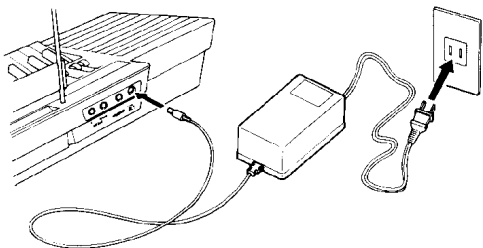
電源をセット

PSR-4500の電源は、家庭用コンセントと乾電池の両方を使用することができます。

家庭用コンセントから電源をとる場合

付属の電源アダプター・PA-5を使用します。図のように接続してください。

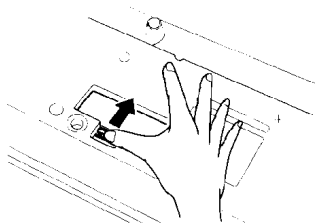
- ①リアパネルにある電源アダプター接続用端子[DC IN(9V-12V)]へ差し込む。



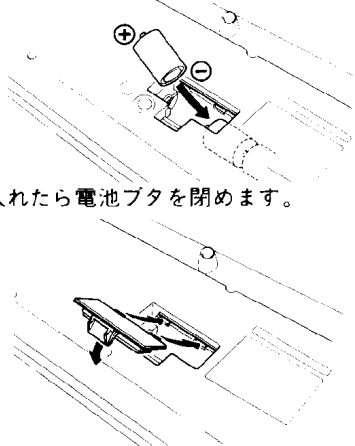
- ②家庭用(AC100V)コンセントに差し込む。
※他の電源アダプターは使わないでください。

乾電池を使う場合

- ①PSR-4500を裏返し、電池ボタンを外します。



- ②市販の乾電池(単1乾電池)を6本入れます。向きを間違えないように入れてください。



- ③乾電池を入れたら電池ボタンを閉めます。

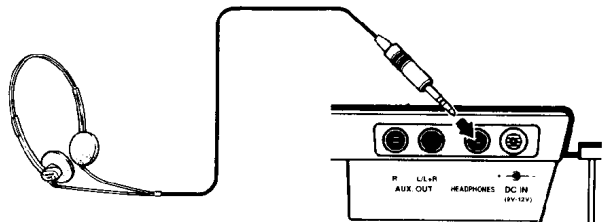
※電池が少なくなりますと、音が歪んだり、誤動作するようになります。このような時は、6本共新しいものと交換してください。

お買い求めの際、乾電池は単1アルカリ乾電池6本とご指定ください。

付属端子

●ヘッドホン端子

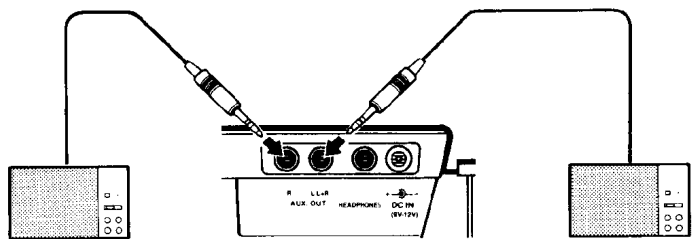
ヘッドホンで聞きたい時は、[HEADPHONES]端子に接続します。内蔵スピーカーからは音が出なくなるので、夜間の練習に最適です。



●AUX出力端子

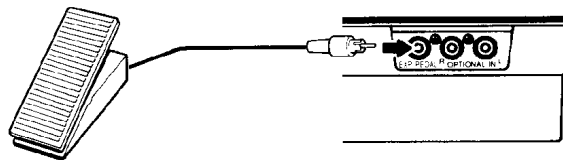
キーボードアンプやステレオオーディオシステムなどで、より迫力ある大きな音で鳴らしたい時は、ホーンプラグコードで、本機の[AUX. OUT]端子と外部機器の[LIN IN] (または[AUX. IN])端子間を接続します。

※キーボードアンプがひとつの場合やオーディオシステムの入力端子がひとつの場合は、[AUX. OUT]のL/L+R端子に差し込んでください。左右の信号がいっしょに出力されます。



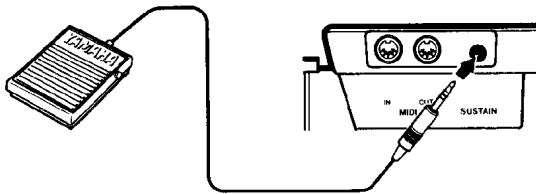
●エクスプレッションペダル端子

本機の全体の音量を足元でコントロールしたい時は、別売のエクスプレッションペダル(42ページ参照)を[EXP. PEDAL]端子に接続します。



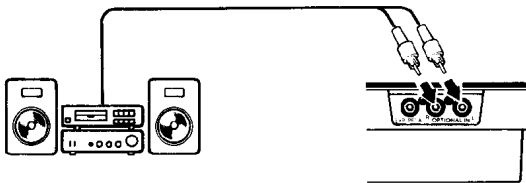
●サスティン端子

サスティン効果を足元でコントロールしたい時は、別売のフットスイッチ(42ページ参照)を[SUSTAIN]端子に接続します。(パネルのサスティンボタンがオフの時は機能しません。)



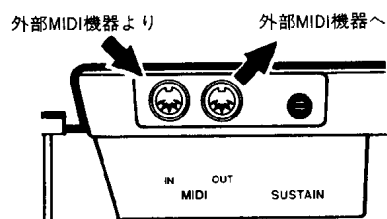
●オプション入力端子

他の楽器やステレオオーディオシステムの音を本機のスピーカーでいっしょに鳴らしたい時は、[OPTIONAL IN]端子に接続します。



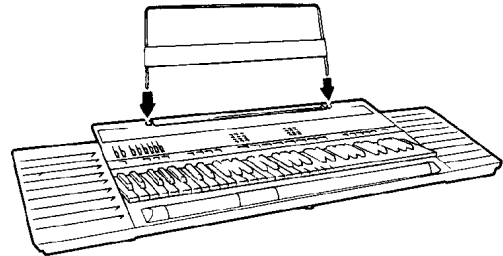
●MIDI端子

[IN]は、本機がMIDI情報を受信するための入力端子です。
[OUT]は、本機が送信するMIDI情報を出力する端子です。
詳しくは45ページ以降をご覧ください。



譜面立ての取り付け方

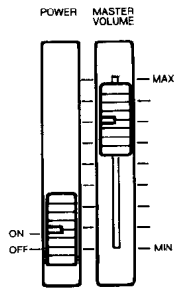
付属の譜面立てを本機に固定させてください。矢印の穴に譜面立ての足を差し込むだけです。



デモ曲を聴いてみましょう

PSR-4500にはデモ曲が入っており、いつでも自由に聞くことができます。

- ① パワースイッチをオンにします。
- ② マスターボリュームをMAXの4分の3くらいにします。



- ③ デモンストレーションボタンを押すと、プリセット(内蔵)されているデモ曲が鳴りだします。



※パワースイッチをオンにした時、パネルの状態は下のようになります。

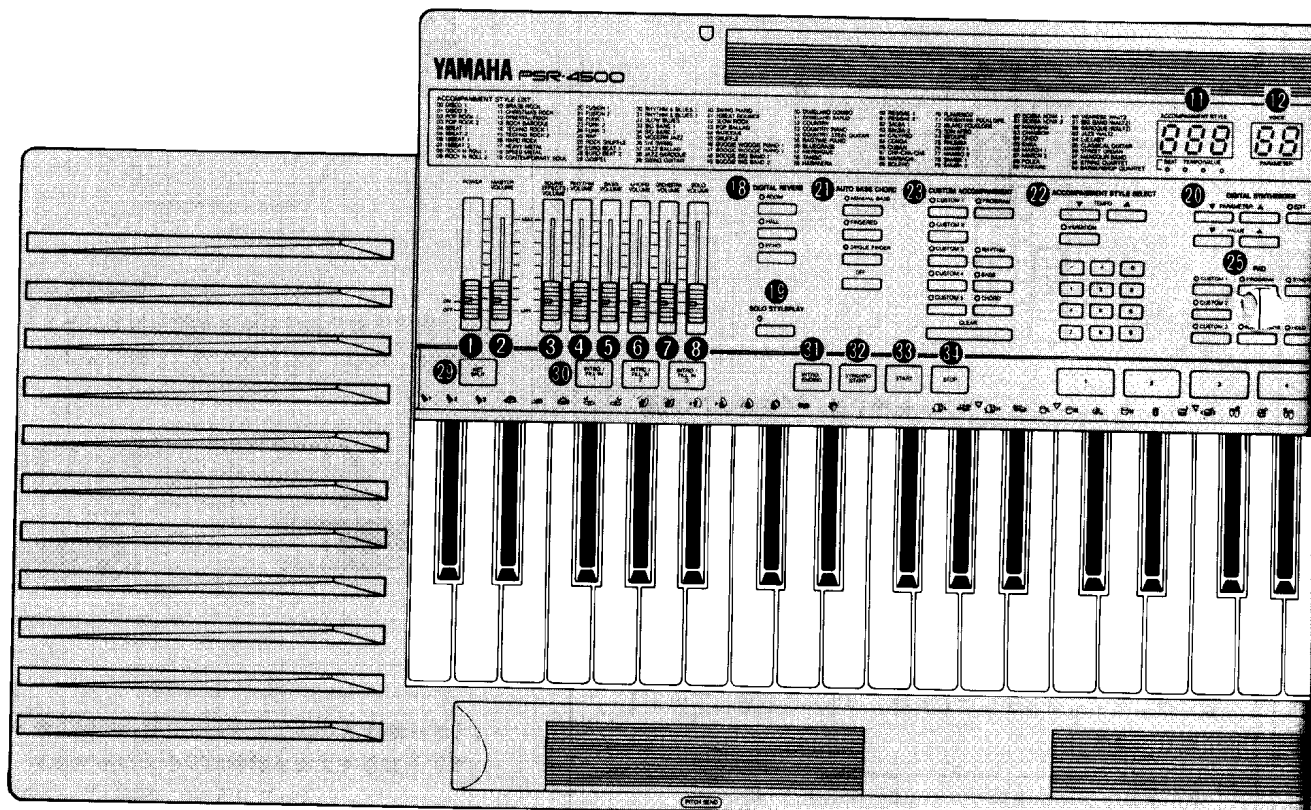
オーケストレーション	→オーケストラ オン
オーケストラ音色	→No.00<ピアノ1>
ソロ音色	→No.00<ピアノ1>
キースプリット	→▼<F#2とG2の間>
アカンパニメント・スタイル	→No.00<ディスコ1>
ピッチ	→ノーマル<A3=440Hz>
トランスポーズ	→ノーマル
デジタルリバーブ	→ホール
パッド	→サウンドエフェクト オン →シンクロブ레이크 オン
キーベロシティ	→オン
ロールバー	→マスターエクスプレッション

用語の解説

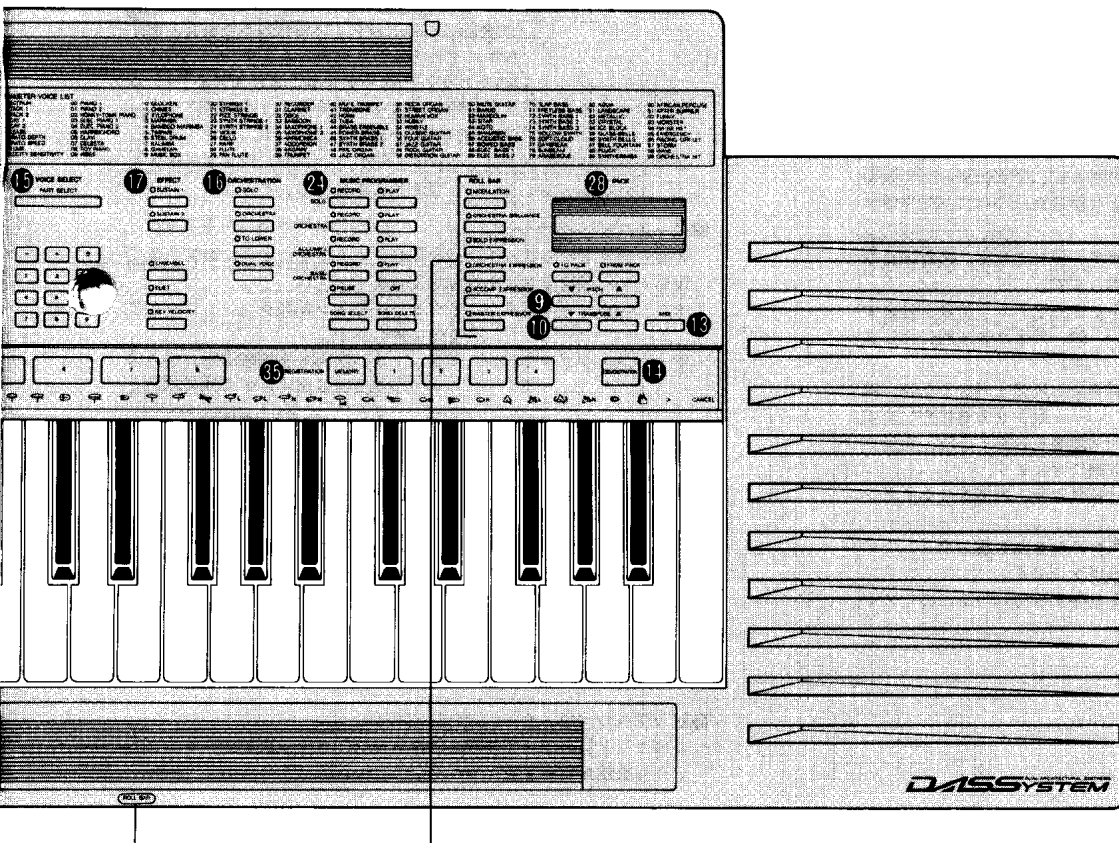
- ・ピッチ(12ページ参照)
発音の高さ(音程)です。音の高さを微調整したい時は、ピッチの値を変更します。(ノーマルの状態ではA3=440Hz)
- ・トランスポーズ(12ページ参照)
移調を意味します。全体的に音の高さ(キー)を変えて鳴らすことができます。

PSR-4500早わかり

PSR-4500の概要をご紹介します。詳しい操作については、()内に示したページをご覧ください。



- ① **パワースイッチ**(→4ページ)
電源を入れたり、切ったりするスイッチです。
- ② **マスターボリューム**(→4ページ)
全体の音量を調節するレバーです。
- ③ **サウンドエフェクトボリューム**(→29ページ)
サウンドエフェクト(効果音)の音量を調節するレバーです。
- ④ **リズムボリューム**(→22ページ)
リズムの音量を調節するレバーです。
- ⑤ **ベースボリューム**(→24ページ)
オートベースコードのベース音の音量を調節するレバーです。
- ⑥ **コードボリューム**(→24ページ)
オートベースコードのコード音の音量を調節するレバーです。
- ⑦ **オーケストラボリューム**(→9ページ)
オーケストラ音色の音量を調節するレバーです。
- ⑧ **ソロボリューム**(→9ページ)
ソロ音色の音量を調節するレバーです。
- ⑨ **ピッチボタン**(→12ページ)
音程を微調整するボタンです。
- ⑩ **トランスポーズボタン**(12ページ)
音程を半音単位で上げ下げするボタンです。簡単に移調できます。
- ⑪ **3桁LEDディスプレイ**(→12、16、22、34ページ)
アコンパニメントスタイル番号、ビート(拍)、テンポ(速さ)、デジタルシンセサイザーのパラメーター、MIDIのモード等を表示します。
- ⑫ **2桁LEDディスプレイ**(→9、10、16、24ページ)
音色番号、デジタルシンセサイザーのパラメーター値、MIDIのデータ値等を表示します。
- ⑬ **MIDIボタン**(→45ページ)
各種のMIDIモードやMIDIチャンネルを設定する時に押します。
- ⑭ **デモンストレーションボタン**(→4ページ)
デモ演奏をスタート/ストップさせるボタンです。
- ⑮ **ボイスセレクト**(→9、10、24、45ページ)
音色を選ぶボタンです。
パートセレクトボタン：ソロ、オーケストラ、ベースのうち、どのパートの音色を切り替えるか指定するボタンです。
テンキー(-、+、0-9)ボタン：音色を選ぶボタンです。MIDIのモード設定時にも使います。



⑬ オーケストレーション(→9,10,11ページ)

ソロボタン：ソロ音色を発音させる時に押します。
 オーケストラボタン：オーケストラ音色を発音させる時に押します。
 トワーローボタン：低音鍵盤部と高音鍵盤部を異なった音色で鳴らす時に押します。
 デュアルボイスボタン：2つのオーケストラ音色を色々組み合わせで発音させる時に押します。

⑭ エフェクトボタン(→13,14ページ)

サスティン1,2ボタン：音に余韻をつける時に押します。2種類の余韻があります。
 アンサンブルボタン：音を広げる効果をかける時に押します。
 デュエットボタン：自動的にハーモニーがつくようにする時に押します。
 キーベロシティーボタン：タッチの強弱を表現する時に押します。

⑮ デジタルリバーブボタン(→14ページ)

音に響きをつける時に押します。3種類の響きがあります。

⑯ ソロスタイルプレイボタン(→14ページ)

演奏に対して自動的に付加音などの効果を加える時に押します。

⑰ デジタルシンセサイザー(→16~18ページ)

デジタルシンセサイザー機能により、プリセットされている音色のパラメーター値を変更して、独自の音色を作ることができます。
 エディットボタン：独自の音色を作る時に押します。
 パラメーターボタン：変更するパラメーターを指定するボタンです。
 バリュースローボタン：指定したパラメーターの値を変更するボタンです。

⑱ オートベースコード(→24~26ページ)

マニュアルベースボタン：左手でベースを弾く時に押します。
 ファインガードボタン：左手で普通にコードを押さえて自動伴奏させる時に押します。
 シングルフィンガーボタン：左手の指一本で自動伴奏させる時に押します。
 オフボタン：3種類のどの機能も使わない時は、このボタンを押します。

⑳ アカンパニメントスタイルセレクト(→22,25ページ)

テンキー(-, +, 0~9)ボタン：アカンパニメントスタイルを選ぶボタンです。
 テンポボタン：曲のテンポを調節するボタンです。
 バリエーションボタン：コードやベースの伴奏パターンを切り替えるボタンです。

④カスタムアカンパニメント(→31~34ページ)

カスタムアカンパニメント機能により、独自の伴奏パターンを作成したり、作成した伴奏パターンを再生させることができます。リズム、ベース、コード3つのパートを独立させながら1セットにして、5パターン記憶させることができます。

プログラムボタン：伴奏パターンを作成する時に押します。

カスタム1~5ボタン：作成した伴奏パターンを保存したり再生する時に、5つの番号の中から選んで押します。

リズム、ベース、コードボタン：自作するパートを指定するボタンです。

クリアボタン：伴奏パターンをパートごとに消すボタンです。

⑤ミュージックプログラマーボタン(→35~39ページ)

ミュージックプログラマーにより、演奏をリアルタイムに録音したり、録音した曲を再生させることができます。ソロ、オーケストラ、アカンパニメント、ベースを独立させながら1セットにして、4曲まで記憶させることができます。

ソロレコード、プレイボタン：ソロ演奏を録音する時、再生させる時に押します。

オーケストラレコード、プレイボタン：オーケストラ演奏を録音する時、再生させる時に押します。

アカンパニメントレコード、プレイボタン：伴奏を録音する時、再生させる時に押します。

ベースレコード、プレイボタン：ベース演奏を録音する時、再生させる時に押します。

ポーズボタン：録音・再生を一時停止させたり、再開させるボタンです。

ソングセレクトボタン：録音または再生させる曲を選ぶボタンです。

オフボタン：録音・再生を終了させるボタンです。

ソングデリートボタン：録音した曲を削除する(消す)時に押します。

⑥パッド(→29,30ページ)

パッド1~8：これらのパッドを叩くと、打楽器音または効果音が鳴ります。

サウンドエフェクト、カスタム1~3ボタン：どのボタンを押すかにより、パッド1~8の音色の割り当てが変わります。

プログラムボタン：パッド1~8に音色を割り当てる時に押します。

(40種類の打楽器音および16種類の効果音の中からそれぞれの音色を選択できます。カスタム1~3のそれぞれに割り当てることができます。)

ホールドボタン：パッドを叩いて鳴らす効果音を、自動的にリピート(繰り返し)させる時に押します。

シンクロブレイクボタン：パッドを叩いている間だけリズムをストップさせる時に押します。

⑦ローラー(→20ページ)

鍵盤を弾きながらローラーを回転させることにより、以下の中から選択された機能をコントロールできます。

モジュレーションボタン：モジュレーション効果をコントロールする時に押します。

オーケストラプリリアンスボタン：オーケストラ演奏の音の明るさをコントロールする時に押します。

ソロエクスプレッションボタン：ソロ演奏の音の大きさをコントロールする時に押します。

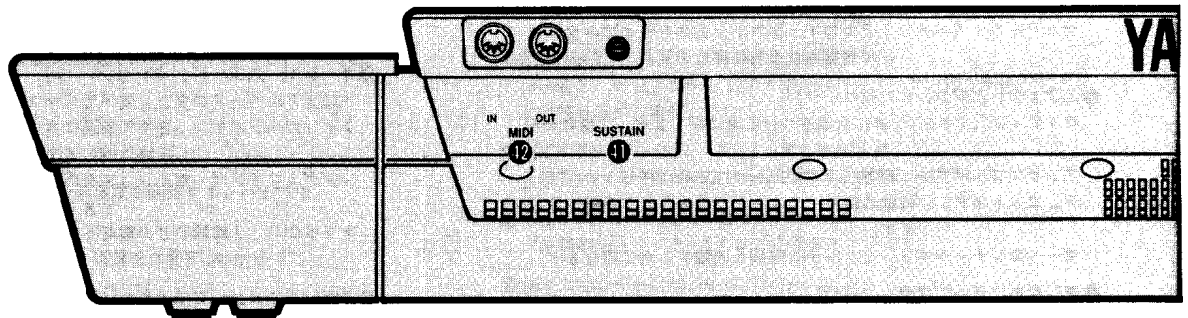
オーケストラエクスプレッションボタン：オーケストラ演奏の音の大きさをコントロールする時に押します。

アカンパニメントエクスプレッションボタン：伴奏の音の大きさをコントロールする時に押します。

マスターエクスプレッションボタン：全体の音の大きさをコントロールする時に押します。

⑧ピッチベンドローラー(→21ページ)

このコントローラーで音程を上下させて、ギターのコヨーキングのような効果が出せます。



⑨バック(→40、41ページ)

バック差込み口：演奏データ保存用のRAMバックを差し込むところ
です。

トゥーバックボタン：RAMバックへ演奏データを保存する時に押し
ます。

フロムバックボタン：RAMバックから演奏データを呼び出す時に押
します。

⑩キースプリットボタン(→11ページ)

伴奏用鍵盤の鍵域を変える時に押すボタンです。

⑪イントロ/フィルイン1~3ボタン(→23ページ)

イントロパターンで曲を始めたり、曲の途中でフィルインを入れる
ボタンです。1~3の3種類のパターンがあります。

⑫イントロ/エンディングボタン(→23ページ)

イントロパターンで演奏を開始させたり、エンディングパターンで
演奏を終了させるボタンです。

⑬シンクロスタートボタン(→23ページ)

オートベースコード用鍵盤を押すと同時に伴奏やリズムをスタート
させる時に押します。

⑭スタートボタン(→22ページ)

自動伴奏やリズムをスタートさせるボタンです。

⑮ストップボタン(→22ページ)

自動伴奏やリズムを停止させるボタンです。

⑯レジストレーション(→19ページ)

パネル上の設定を、4パターン記憶させることができます。

メモリーボタン：パネル上の設定を記憶させる時は、このボタンと
1~4ボタンのいずれかを同時に押します。

1~4ボタン：記憶させたパネル上の設定を呼び出す時に押します。
1~4の4種類あります。

⑰DC IN(9V-12V)(電源アダプター接続用端子)(→2ページ)

付属の電源アダプターPA-5を接続する端子です。

⑱HEADPHONES(ヘッドホン端子)(→2ページ)

ヘッドホンを接続する端子です。

⑲AUX. OUT(R, L/L+R)(AUX出力端子)(→2ページ)

本機の音を送る端子で、キーボードアンプやステレオで鳴らすこと
ができます。

⑳OPTIONAL IN(R, L)(オプション入力端子)(→3ページ)

他の電子楽器の音を本機のスピーカーで鳴らすための端子です。

㉑EXP. PEDAL(エクスプレッションペダル端子)(→2ページ)

エクスプレッションペダルを接続する端子です。

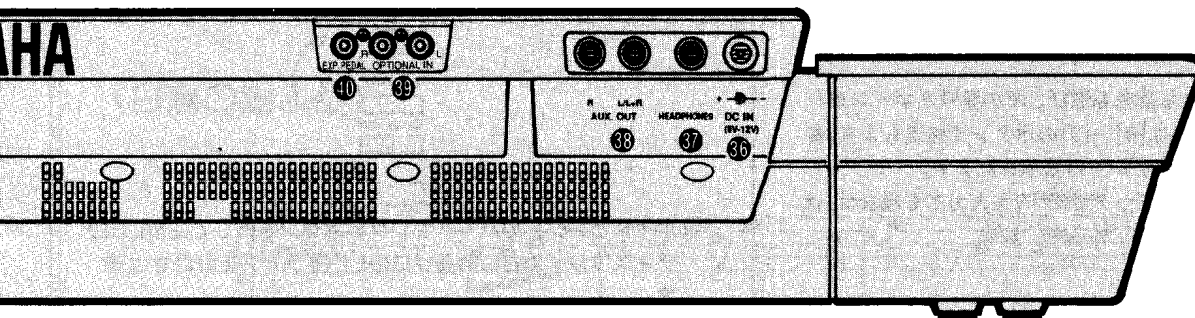
㉒SUSTAIN(サスティン端子)(→3ページ)

サスティンペダルを接続する端子です。

㉓MIDI(→3、45ページ)

MIDI OUT(MIDIアウト端子)：本機のMIDI情報を他のMIDI機器へ送る
端子です。

MIDI IN(MIDIイン端子)：他のMIDI機器からMIDI情報を受ける端子で
す。

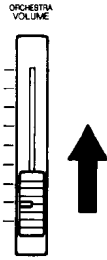


音色を選びましょう

音色にはオーケストラ音色とソロ音色があります。またトゥーロー機能を使うと、鍵盤を低音鍵盤部と高音鍵盤部に分けて弾くことができます。(低音鍵盤部はオーケストラ音色で、高音鍵盤部はソロ音色で鳴ります。)

オーケストラ

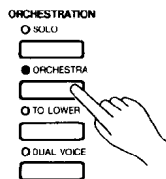
①オーケストラボリュームを調節します。



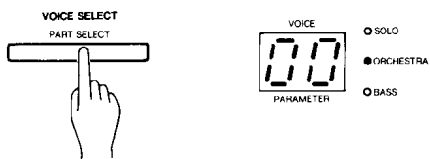
②オーケストレーションのオーケストラボタンを押してランプを点灯させます。

オーケストラ以外のボタンがオンになっている時は、そのボタンを押して、オフ(ランプ消灯)にしてください。

★電源投入時は、オーケストラがオンの状態になっています。



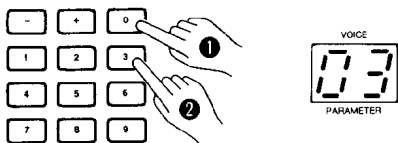
③ボイスセレクトのパートセレクトボタンを押して、2桁LEDディスプレイの右にあるオーケストラのLEDランプを点灯させます。



④音色を選びます。

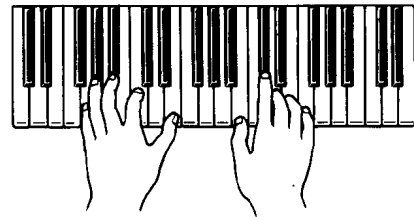
ボイスリストの中から音色を選び、その番号をボイスセレクトの[+]、[-]または[0]~[9]のボタンで指定します。音色番号は2桁LEDディスプレイに表示されます。

例えばNo.03のエレクトリックピアノ1を入力する場合は、はじめに[0]を押し、続いて[3]を押します。



★[+]、[-]ボタンは数字を一つずつ増減させます。99で[+]を押すと00に、また00で[-]を押すと99になります。また[+]と[-]を同時に押すと、今選んでいる音色番号の10の位が固定されます([+]または[-]をもう一度押すと解除できます。)。この機能は、[0]~[9]のボタンを使い、指一本で1の位だけを選んで、10種類の音色を呼び出すことができ便利です。

⑤鍵盤を弾いて鳴らしてみましょう。

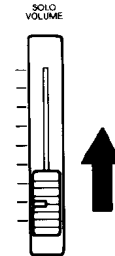


★8音まで同時に発音させることができます。(発音数は、ソロボイスやオートベースコードなどの再生状態によって異なります。)

→詳しくは、25ページをご覧ください。

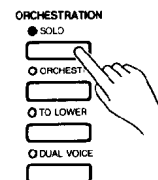
ソロ

①ソロボリュームを調節します。

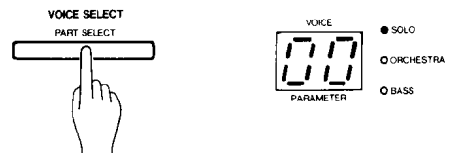


②オーケストレーションのソロボタンを押します。

ソロ以外のボタンがオンになっている時は、そのボタンを押して、オフにしてください。

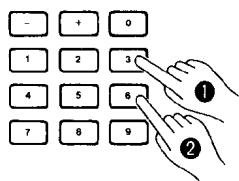


③ボイスセレクトのパートセレクトボタンを押して、2桁LEDディスプレイの右にあるソロのLEDランプを点灯させます。



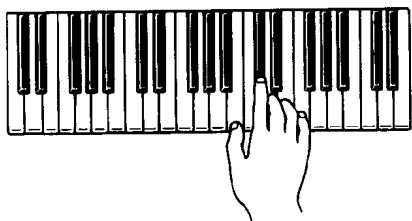
④音色を選びます。

ボイスリストの中から音色を選び、その番号をボイスセレクトの[+]、[-]または[0]~[9]のボタンで指定します。音色番号は2桁LEDディスプレイに表示されます。例えばNo.36のハーモニカを指定する場合は、はじめに[3]を押し、続いて[6]を押します。



★[+]、[-]ボタンは数字を一つずつ増減させます。99で[+]を押すと00に、また00で[-]を押すと99になります。また[+]と[-]を同時に押すと、今選んでいる音色番号の10の位が固定されます([+]または[-]をもう一度押すと解除できます。)。この機能は、[0]~[9]のボタンを使い、指一本で1の位だけを選んで、10種類の音色を呼び出すことができ便利です。

⑤鍵盤を弾いて鳴らしてみよう。



★発音は1音のみで、複数押鍵した場合は最高音が発音されます。

★オーケストラボタンとソロボタンを両方ともオンにすると、オーケストラ音色とソロ音色の両方が発音され、アンサンブルを楽しむことができます。

★オーケストラボタンとソロボタンが両方ともオフの場合は、オーケストラ音色が発音されます。

トゥーロー

伴奏とメロディーを異なる音色で楽しんでみましょう。

①オーケストレーションのトゥーローボタンを押します。低音鍵盤部はオーケストラ音色で、高音鍵盤部はソロ音色で発音されるようになります。低音鍵盤部と高音鍵盤部は、キースプリットで指定した位置で分かります。



★ソロとオーケストラボイスのオン/オフに関係なく、上記のように発音されます。

★低音鍵盤部のオーケストラ音色は、実際の鍵盤より1オクターブ高く発音されます。

さあ!両手で弾いてみましょう。

ソロでオーボエ、オーケストラでハープのデュエットが楽しめます。

〈白鳥の湖より〉

ソロ

3 2 Oboe

2 7 Harp


オーケストラ

※オーケストラパートは、オクターブ下で演奏します。

キースプリット

伴奏とメロディーの鍵盤を変えてみましょう。

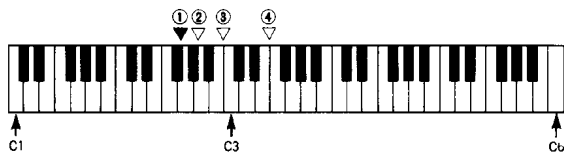
伴奏(低音鍵盤部)とメロディー(高音鍵盤部)鍵盤の境界点をスプリットポイントといいます。


 スプリットポイントは、下図のように4箇所あります。また、任意の鍵盤位置へのセットもできます。

スプリットポイント


- ①：F#2とG2の間
- ②：G#2とA2の間
- ③：B2とC3の間
- ④：E3とF3の間

★パワースイッチをオンにしたときは、①の位置になります。



 キースプリットボタンを押して範囲を指定します。キースプリットボタンを押すたびに、①→②→③→④→①の順にスプリットポイントが変わります。(②・③・④については、▽印が点灯します。)



 任意の鍵盤の位置をスプリットポイントにすることもできます(ただし、指定範囲はC1～E3の内の1点とします。)。鍵盤を押しながら、キースプリットボタンを押します。すると、その鍵盤以下が伴奏鍵盤となります(この場合スプリットポイントの表示はありません。)。ただし、リズムをスタートさせた後は、任意の設定変更はできません。

デュアルボイス

2つのオーケストラ音色を同時に発音させることができます。

①デュアルボイスボタンを押してランプを点灯させます。パワースイッチオン後のデュアルボイスオンの状態では、ピアノ1とオーケストラヒットがミックスされた音色になります。

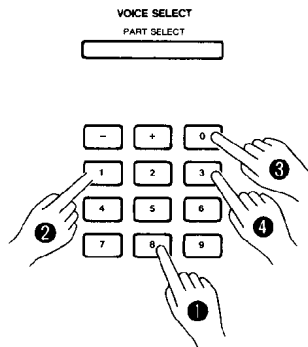


★トゥーローワーがオンになっていると、デュアルボイスはオンにできません。この場合は、トゥーローワーをオフにしてください。

②ボイスセレクトボタンで音色を指定します。

2つの音色を指定しますが、ミックスされる音色は、最後に指定した音色とその前に指定されていた音色です。なお、2つの音がミックスされるので、デュアルボイスオン時の同時発音数は、ミックス前の半分になります。

例えばNo.81のランドスケープとNo.03のエレクトリックピアノ1のデュアルボイスの場合は、[8]→[1]→[0]→[3]の順に押します。



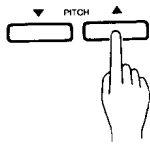
- ★デュアルボイスオン状態の時にトゥーローワーやデュエットをオンにすると、デュアルボイスは解除されます。
- ★デュアルボイスをオフにする場合は、再びデュアルボイスボタンを押してランプを消灯させてください。
- ★1曲の中で、デュアルボイスのオンとオフを使い分けると効果的です。

ピッチ

音の高さ(音程)を、他の楽器やいろいろな再生音楽に合わせて使う、チューニングのための機能です。

①ピッチボタンでチューニングを行います。

[▼](ダウン)と[▲](アップ)ボタンで変更します。変更できる範囲は-50セント(1/2半音)~+50セント(1/2半音)までで、0はノーマルです(1ステップで約3セント変化します。)。100セントは半音です。

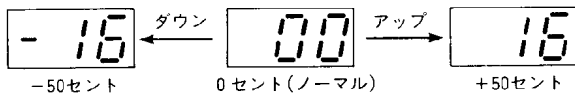


★[▼]または[▲]ボタンを押し続けると、値は連続して変化します。

②[▼]ボタンと[▲]ボタンを同時に押すとノーマルに戻ります。

また、パワースイッチをオンにした時はいつもノーマルになっています。

★ボタンを押す毎に、ピッチの値が3桁LEDディスプレイに約3秒間表示されます。



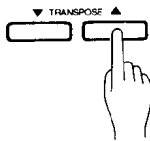
トランスポーズ

全体のキーを半音単位で上げ下げする機能です。弾き方を変えなくても移調できたり、鍵盤の最低音より低い音や、最高音より高い音を出すことができます。

①トランスポーズボタンを押します。

[▼](ダウン)と[▲](アップ)ボタンで変更します。変更できる範囲は-6(-1/2オクターブ)~+6(1/2オクターブ)までで、0はノーマルです。

例えば値を5にして、ハ長調の曲を弾くと5半音高い音が出て、ヘ長調に移調されます。



②[▼]と[▲]ボタンを同時に押すとノーマルに戻ります。

また、パワースイッチをオンにした時は、いつもノーマルになっています。

★ボタンを押す毎に、トランスポーズの値が3桁LEDディスプレイに3秒間表示されます。



音色に効果をかけましょう

好みに応じていろいろな効果をかけてみましょう。音に余韻がつくサスティンをはじめ、音に残響がつくデジタルリバーブや、ハーモニーがつくデュエットなどがあります。

サスティン

音に余韻をつける効果です。

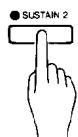
①短めの余韻をつけます。(ショートサスティン)

サスティン1ボタンを押してランプを点灯させます。



②自然な感じの余韻をつけます。(ロングサスティン)

サスティン2ボタンを押してランプを点灯させます。



★オーケストラ音色とソロ音色を両方発音させている場合も、サスティン効果が同時にかかります。

★別売のフットスイッチを使って、足元でオン/オフさせることもできます。


★フットスイッチが接続されておりペダルがオフの時は、サスティン効果は得られません。また、ペダルがオンでも、パネルのサスティンボタンがオフの時は効果は得られません。

★サスティン1とサスティン2の効果を同時にオンすることはできません。後から押えた方が機能します。

★サスティンをオフにする時は、オンになっている方のボタンを押してランプを消灯させてください。

アンサンブル

その音色の楽器が集まってアンサンブルをしているような効果を得ることができます。

 アンサンブルボタンを押してランプを点灯させます。



★音色番号によっては、効果のかかり方が薄い場合や音色が変わる場合があります。

★オーケストラ音色とソロ音色の両方を発音させている場合も、アンサンブル効果が同時にかかります。


★デジタルシンセサイザーのエディット音には、アンサンブル効果はかかりません。

★アンサンブル効果をオフにする時は、再びアンサンブルボタンを押してランプを消灯させてください。

デュエット

オートベースコードを使用している時に機能するもので、ハーモニーの効果を得られます。オートベースコード検出領域での押鍵コードによって、自動的にメロディーにふさわしい音が付け加えられます。

(オートベースコードについては24~28ページを参照してください。)

 デュエットボタンを押してランプを点灯させます。低音部鍵盤でオートベースコードのフィンガードまたはシングルフィンガーコードの弾きかたをしながら、高音部鍵盤を弾いてください。高音部鍵盤での演奏音とは別のハーモニー音が付加されます。

付加音の音色はオーケストラ音色で選んだ音色になります。ソロ音色のみオンになっていても、付加音はオーケストラ音色で発音されます。



★同時に複数の鍵盤を押さえた場合は、そのメロディーの最高音にのみ付け加わります。


★デュエット機能がオンになっている時にトゥーローやデュアルボイス機能をオン状態にすると、デュエット機能は解除されます。

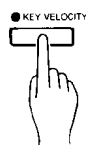
★トゥーロー機能がオンになっている場合は、デュエット機能はオンにできません。

★デュエット機能をオフにする時は、再びデュエットボタンを押してランプを消灯させてください。

キーベロシティ

鍵盤を叩く強さ(タッチ)で音の強弱をつけられる機能です。オーケストラボイスとソロボイス及びマニュアルベースにおけるタッチコントロールのオン/オフを行います。


- 
 パワースイッチオンにすると、キーベロシティはオンの状態になります。キーベロシティを使わない場合は、キーベロシティボタンを押してタッチコントロールを解除します。

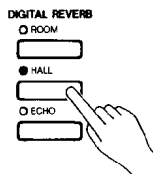


- ★タッチコントロールの感度は、ボイスナンバーによって異なります。またデジタルシンセサイザーで、その感度を微妙に変化させることができます。(18ページ参照)

デジタルリバーブ

音に残響をつける効果です。

- 
 デジタルリバーブには、特性の違う3つの効果を用意されています。それぞれのボタンを押してランプを点灯させ、効果をかけます。



3つのデジタルリバーブ

- ルーム**
 比較的浅い残響が、リズムを含む全ての音色にかかります。
 - ホール**
 大きなホールで演奏しているような残響が、リズムを含むすべての音色にかかります。
 - エコー**
 こだま効果のような比較的深めの残響が、リズム、ベース、コード、サウンドエフェクトを除く全ての音色にかかります。
- ★すべてのリバーブをオフにしたい時は、オンになっているリバーブボタンをもう一度押してランプを消灯させてください。
- ★演奏中にリバーブのモードをエコーに切り替えたり、エコーから他のモードに切り替えると、一瞬音が途切れることがあります。

ソロスタイルプレイ

演奏中の曲に自動的に付加音や効果加わるようになります(どのような付加音や効果加わるかは、スタイルごとに決まっています)。なお、この機能を使った場合は、高音側の鍵盤でのオーケストラ音色による演奏が単音に制限されます。

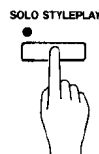
①スタイルを選びます。

アカンパニメントスタイルリストの中からリズムを選びます。(詳しくは24ページをご覧ください。)

②演奏モードを選びます。

オートベースコードのボタンで、シングルフィンガーで演奏するかフィンガードで演奏するかを決めます。(詳しくは24ページをご覧ください。)

③ソロスタイルプレイボタンを押してランプを点灯させます。



- ★オートベースコードのモードがフィンガードになっている場合以外は、シングルフィンガーに自動設定されます。オーケストラボイスがオンになり、音色番号も自動設定されます。
- ★自動的にシンクロスタートスタンバイ状態になります。(詳しくは23ページをご覧ください。)
- ★ソロスタイルプレイをオンにすると、そのスタイルにふさわしいオーケストラ音色が自動的に設定されます。
- ★トゥーローワーとデュアルボイス、デュエット、デジタルシンセサイザーのエディットはオフになります。

④演奏をはじめます。

キースプリットより左側の鍵盤(オートベースコード用鍵盤)を弾くと、自動的に伴奏が始まります。

⑤演奏を終了させます。

リズムのストップまたはイントロ/エンディングボタンを押して、演奏を終了させます。

★リズムを停止させた状態でも、スタイルによっては付加音や効果音加わるものがあります。

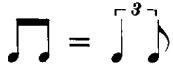
★ソロスタイルプレイをオフにする時は、再びソロスタイルプレイボタンを押してランプを消灯させてください。

ソロスタイルプレイ1

パイプとピアノのハモリながらのメロディー弾きが、いかにもジャズコンボスタイル風な演奏になります。

〈枯葉〉 LES FEUILLES MORTES —Autumn Leaves—

作曲：Joseph KOSMA



3 5 Modern Jazz



日本音楽著作権協会(出)許諾第8971218-901号

© a) Publié avec l'autorisation de MM. ENOCH & Cie, Editeurs propriétaires, Paris.

b) Paroles Françaises de Jacques PRÉVERT.

c) Copyright 1947 by ENOCH & Cie.

Rights for Japan assigned to SUISEISHA Music Publishers, Tokyo.

ソロスタイルプレイ2

72ならシロフォン、95ならギター、97ならバンジョーによるトレモロ演奏が雰囲気をごっと盛り上げます。

〈コンドルは飛んでゆく〉 EL CONDOR PASA

作曲：D.A. ROBLES

7 2 Island Folklore

9 5 Classical Guitar

9 7 Mandolin Band



日本音楽著作権協会(出)許諾第8971218-901号

© Copyright MCMXXXIII, MCMLXIII, MCMLXX by Edward B. Marks Music Corp. and Jorge Milchberg.
Rights for Japan controlled by TOA MUSIC INTERNATIONAL Co. Used by Permission.

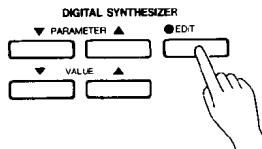
オリジナルの音をつくりましょう

(デジタルシンセサイザー)

デジタルシンセサイザーを使えば、自分のイメージ通りの音が作れます。エディット音は、ボイスリストの各1音色につき、1つ作ることができるので、合計100音色のエディット音をストックすることが可能です。

音色の呼び出し

- ①オーケストレーションをオーケストラまたはソロオンにし、ボイスセレクトのパートセレクトも同じパートにします。
★ベースパートにはエディットは効きません。
- ②ボイスリストの中から変更したい音色を呼び出します。
- ③デジタルシンセサイザーのエディットボタンを押します。



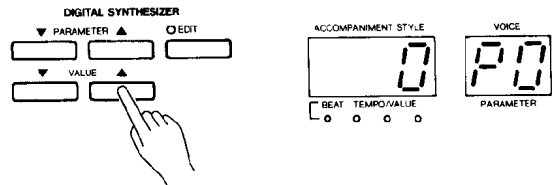
★パラメーター(変更することのできるそれぞれの項目)、バリュー(それぞれのパラメータの値)を何も変化させなかった場合は、エディットオン時とオフ時に同じ音色で鳴るようにセットされていますが、中には異なる場合もあります。

音色の作成

変更できるパラメーターは10種類あります。パラメーター番号<P0>~<P9>で表します。

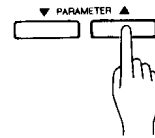
パラメーター	変更できる内容	
P0	スペクトラム	音色を変える
P1	アタック1	アタック時の音色変化
P2	アタック2	音の立ち上がり時間
P3	ディケイ1	減衰時の音色変化
P4	ディケイ2	音の減衰時間
P5	リリース	音の余韻時間
P6	ビブラート・デプス	ビブラートの深さ
P7	ビブラート・スピード	ビブラートの速さ
P8	ボリューム	音色ごとの音量
P9	ペロシティ・センシティブィティ	タッチの感度

- ①パラメーターの[▼][▲]ボタンを押すと、パラメーター番号が2桁LEDディスプレイに表示されます。
また、バリューの[▼][▲]ボタンを押すと、パラメーター値が3桁LEDディスプレイに表示されます。

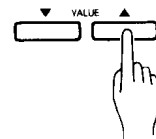


★5秒以上そのままにしておくと、LEDディスプレイの表示は元のスタイルと音色番号表示に戻ります。

- ②パラメーターの[▼][▲]ボタンで、変更するパラメーターを選びます。



- ③バリューの[▼][▲]ボタンで、希望する値にします。
ボタンを押すことにより数値が増減します。



- ★バリューの[▼]と[▲]ボタンを同時に押すと、プリセット値に戻ります。
- ★パラメーター(バリュー)の可変値は音色によって異なります。
- ★音色によっては、パラメーター値を増減させてもあまり変化が感じられないものがあります。
- ★音色によっては、可変できないパラメーターがあります。
- ★設定したパラメーター値は、電源をオフにしても記憶されています。(記憶されている期間は約1週間です。)
- ★オーケストラ音色とソロ音色は、同時にエディットされません。それぞれを別々にエディットすることはできません。
- ★エディット音には、エフェクトのアンサンブルはかけられません。アンサンブルをオンにすると、エディットは解除されます。

各パラメーターの解説とエディット例

ここでは10種類あるパラメーターの内容とエディット例について説明します。

スペクトラム



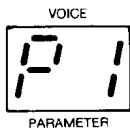
音色の違いは、その信号に含まれている周波数の成分と量で決まります。その周波数の成分と量を調整し、音色を変化させます。

★バリュー値を上げるにしたがって明るい感じになります。

〈例〉音色番号20のストリングス1をエディット

スペクトラムの値を徐々に上げていくと、キラキラした音が音色の中に現われて、明るい感じになります。音を目立たせたい時などは、スペクトラムを調整します。

アタック1



音の立ち上がり時(アタック時)の音色変化を調整します。

★バリュー値を下げるにしたがって、アタック時の音色変化の時間が長くなります。

〈例〉音色番号44のプラスアンサンブルをエディット

アタック1の値を下げると、パワーとした音色になり、アタックの部分がソフトになります。値を上げていくとアタックの部分が硬い音色になります。

アタック2



音の立ち上がり時間(アタックの速さ)を調整します。

★バリュー値を下げるにしたがって、ゆっくりとしたアタックになり、音量がゆっくりと上がっていくことになります。

〈例〉音色番号23のシンセストリングス1をエディット

アタック2の値を上げていくと、音色はポンという感じの鍵盤楽器風になっていきます。また、逆に下げていくと、フワとした立ち上がりになります。速いフレーズを弾く場合などに、ここで音の立ち上がりのスピードを調整します。

ディケイ1



鍵盤を押している間の音の減衰時の音色変化の時間を調整します。

★バリュー値を下げるにしたがって、減衰時の音色変化の時間が長くなります。

〈例〉音色番号03のエレクトリックピアノ1をエディット

ディケイ1とは、鍵盤を押している間の音色の変化を調整するものです。ディケイ1の値を上げると音色が速く変化するので、つまった感じの音色になります。

ディケイ2



鍵盤を押している間の音の減衰時間を調整します。

★バリュー値を下げるにしたがって、音量がゆっくりと下がっていくことになります。

〈例〉音色番号27のハーブをエディット

ディケイ2は、鍵盤を押したままにした時の音が消えていくスピードを調整します。従って、このハーブの音色は鍵盤を押したまましていると少しは音が残っていますが、ディケイ2の値を上げるとすぐに音が消えるので、ポツポツした音になります。逆に下げると、なかなか音が消えない状態になります。

リリース



鍵盤を離した後の余韻時間を調整します。
余韻時間とは、鍵盤を離してから音が消えるまでの時間のことをいいます。

★バリュー値を下げるにしたがって、余韻時間が長くなります。

〈例〉音色番号10のグロッケンをエディット

このグロッケンの音を弾いて鍵盤を離しても、あまり余韻は残りません。そこで、リリースの値を下げていくと余韻が長くなっていきます。値を上げると、今までは少しは余韻があったのが、まったくなくなりポツポツという音になります。

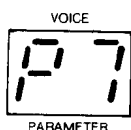
ビブラート・デプス



ビブラート効果の深さを調整します。

★バリュー値を上げるにしたがって、ビブラートが強くなるようになります。

ビブラート・スピード



ビブラート効果の速さを調整します。

★バリュー値を上げるにしたがって、ビブラートが速くなるようになります。

〈例〉音色番号25のバイオリンをエディット

このビブラート・デプスとビブラート・スピードは関連があるので、一つの音色で試してみましょう。
まず、デプスはビブラート効果の度合を調整するのでビブラート・デプスの値を上げると、演歌のコブシ的な派手なビブラートがかかります。また、ビブラート・スピードは文字どおりビブラートの速さですので、この値を上げるとビブラートが速くなります。曲のテンポや雰囲気によって調整します。

ボリューム



音色ごとの音量を設定します。
各音色間の音量バランスを調整することができます。

★バリュー値を下げるにしたがって、音量が小さくなります。

〈例〉音色番号48のパイプオルガンをエディット

プリセットされている100の音色は均等の音量でつくられていますが、音色によっては受ける印象によって、大きな音の音色と小さな音の音色があります。例えば、このパイプオルガンと音色番号83のクリスタルのデュアルボイスにした場合、パイプオルガンの方が大きく聞こえてきます。このような2つの音色の音量バランスをとるのが、ボリュームというパラメーターです。

ベロシティ・センシティブィティ



キーベロシティボタンオン時の鍵盤のタッチの感度を調整します。値を最小にしたときは、タッチ感度が0の状態となり、強く弾いても弱く弾いても音の変化はありません。

★バリュー値を上げるにしたがって、感度がよくなり、鍵盤を弾くタッチによって音量や音色が微妙にコントロールできるようになります。

〈例〉音色番号00のピアノ1をエディット

アコースティックピアノなどは弱く弾けば弱い音、強く弾けば力強い音ができますが、このベロシティ・センシティブィティは、そういったタッチの強弱を調整します。タッチによる音量の変化が大きすぎて演奏しづらい時は、バリュー値を下げると、演奏しやすくなります。

パネルの状態を記憶させましょう

(レジストレーションメモリー)

パネルの情報を記憶させ、ボタンひとつで再現することができます。

①レジストレーションをセットします。

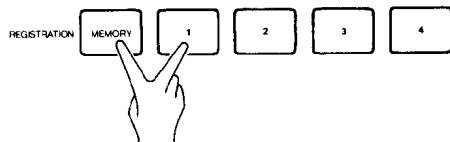
パネルのボタンやレバーのセッティング状態をレジストレーションといいます。記憶させたい状態にレジストレーションをセットします。

〈レジストレーションとして記憶される内容〉

- ・オーケストラボリューム
- ・ソロボリューム
- ・リズムボリューム
- ・コードボリューム
- ・ベースボリューム
- ・サウンドエフェクトボリューム
- ・オートベースコードのモード
- ・アカンパニメントバリエーション
- ・スタイルセレクト
- ・ソロスタイルプレイのオン/オフ
- ・カスタムアカンパニメント1~5
- ・テンポ
- ・ソロのオン/オフ
- ・オーケストラのオン/オフ
- ・トゥーローのオン/オフ
- ・ソロ音色の選択
- ・ベース音色の選択
- ・サステイン1・2
- ・アンサンプルのオン/オフ
- ・デュエットのオン/オフ
- ・デュアルボイスのオン/オフ
- ・デュアルボイスの音色の選択
- ・キーベロシティのオン/オフ
- ・サウンドエフェクトのオン/オフ
- ・ホールドのオン/オフ
- ・ドラムパッド カスタム1~3
- ・シンクロブレイク
- ・ロールバーの機能の選択
- ・デジタルリバーブ
- ・キースプリット
- ・パートセレクト
- ・エディットのオン/オフ

②レジストレーションを記憶させます。

レジストレーションのメモリーボタンを押しながら、数字(1~4)ボタンをひとつ押します。4パターンまで記憶させることができます。

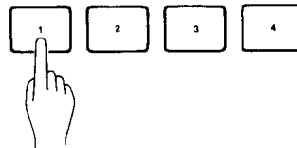


★記憶させると、以前その番号に入っていた内容は消されます。

★各ボリューム値まで記憶されますが、マスターボリュームは記憶されません。

③レジストレーションを呼び出します。

数字ボタンを押します。すると、その番号に記憶されていたレジストレーションがパネルに展開されます。



★電源をオフにしても、記憶された内容は消えません。(記憶されている期間は約1週間です。)

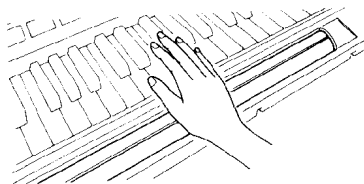
ロールバーとピッチベンドローラーで 多彩なプレイを楽しみましょう

コントロールする機能を選ぶことができるロールバーや、チョーキング効果を出せるピッチベンドローラーは、鍵盤を弾きながら操作することができる便利な機能です。

ロールバー


モジュレーション、オーケストラブリリアンス、ソロエクスプレッション、オーケストラエクスプレッション、アカンパニメントエクスプレッション、マスターエクスプレッションの6つの機能を選択することができます。それぞれのモードボタンを押して、ロールバーを回転操作します。

- ROLL BAR
- MODULATION
 - ORCHESTRA BRILLIANCE
 - SOLO EXPRESSION
 - ORCHESTRA EXPRESSION
 - ACCOMP. EXPRESSION
 - MASTER EXPRESSION



1. モジュレーション

オーケストラ音色とソロ音色の変調(音のゆれ具合)の度合を変化させることにより、効果を変化させるものです。鍵盤側に回転させるにしたがって、変調は深くなります。


 モジュレーションボタンを押してランプを点灯させ、バーを操作します。

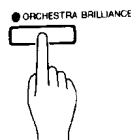


★変化があまり感じられない音色もあります。

2. オーケストラブリリアンス

オーケストラ音色を輝くような感じにする、ブリリアンス効果のかかり具合をコントロールできます。鍵盤側に回転させるにしたがって、輝くような感じになります。


 オーケストラブリリアンスボタンを押してランプを点灯させ、バーを操作します。

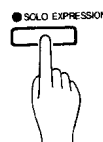


★変化があまり感じられない音色もあります。

3. ソロエクスプレッション


ソロ音色の音量を変化させます。鍵盤側に回転させるにしたがって、音量がアップします。

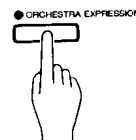
 ソロエクスプレッションボタンを押してランプを点灯させ、バーを操作します。



4. オーケストラエクスプレッション


オーケストラ音色の音量を変化させます。鍵盤側に回転させるにしたがって、音量がアップします。

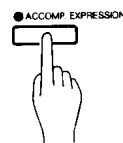
 オーケストラエクスプレッションボタンを押してランプを点灯させ、バーを操作します。



5. アカンパニメントエクスプレッション


ベース、コード、リズムの音量を変化させます。鍵盤側に回転させるにしたがって、音量がアップします。

 アカンパニメントエクスプレッションボタンを押してランプを点灯させ、バーを操作します。



6. マスターエクスプレッション

全体の音量を変化させます。鍵盤側に回転させるにしたがって、音量がアップします。

 マスターエクスプレッションボタンを押してランプを点灯させ、バーを操作します。



★可変幅は-6~+6dBです。


★電源投入時は、マスターエクスプレッションがオンの状態になっています。

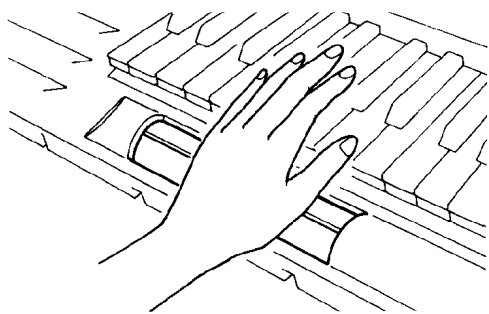
★ロールバーは同時に2つ以上の機能を設定することはできません。

★点灯しているボタンを押すことで、ロールバーの機能をオフにすることができます。この時の各音量は、各エクスプレッションオン時にロールバーが中央位置にある場合と同じになります。

ピッチベンドローラー

オーケストラ音色とソロ音色のピッチ(音程)を連続的に変化させ、チョーキング効果を作り出します。リアルタイムでかかるのはソロ音色・オーケストラ音色だけで、オートベースコード、ミュージックプログラマー、サウンドエフェクトには作用しません。また、トゥーローオン時のローワーにも作用しません。

 鍵盤側に回転させるにしたがって、ピッチ(音程)が上がります。また、手前側に回転させるとピッチは下がります。



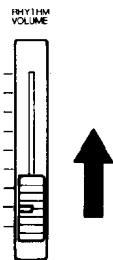
★ピッチ(音程)の可変幅は $\langle \pm 200$ セント \rangle です。

リズムを鳴らしましょう

100種類のアカンパニメント(伴奏)スタイルがプリセットされています。

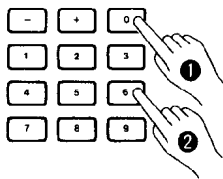
リズムの選択

①リズムボリュームを調節します。



②リズムを選びます。

アカンパニメントスタイルリストの中からリズムを選び、その番号をアカンパニメントスタイルセレクトの[+]、[-]または[0]~[9]のボタンで指定します。番号は3桁LEDディスプレイに表示されます。例えばNo.06の16ビート1を指定する場合は、はじめに[0]を押し、続いて[6]を押します。



★[+]ボタンを押すと数字は一つ増え、[-]ボタンを押すと数字は一つ減ります。99から[+]を押した場合は00、00から[-]を押した場合は99になります。また、同時に押すと今選んでいるスタイルの10の位が固定されます。(もう一度[+]か[-]のボタンを押すと解除できます。)10の位を固定させる機能は、[0]~[9]のボタンを使い指一本で1の位だけを選んで、10種類のアカンパニメントスタイルを呼び出すことができ便利です。

③リズムをスタート

スタートボタンを押すとリズムが鳴りだします。



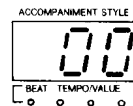
④リズムストップ

ストップボタンを押すとリズムが止まります。

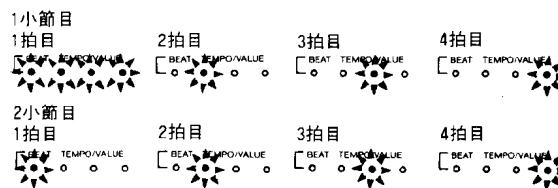


ビート(拍)の表示

リズムをスタートさせると、3桁LEDディスプレイ下の4つのLEDが拍に合わせて点灯します。

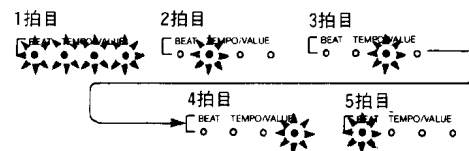


例)4/4拍子のリズムの場合



→以降この8拍を繰り返し

例)5/4拍子のリズムの場合

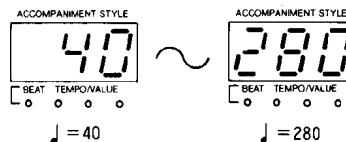


→以降この5拍を繰り返し

★各小節の1拍目では、必ず1番左の赤色LEDが点灯します。

テンポを変える

テンポボタンの[▼](ダウン)[▲](アップ)で、リズムの速さを変更することができます。押し続けていれば、連続的に数値が変わります。変更後のテンポは、3桁LEDディスプレイに約2秒間表示されます。変更できる範囲は「」=40~280です。



★各スタイルごとに、そのスタイルにふさわしいテンポがセットされています。

★リズムを止めた状態でスタイル変更すると、テンポはそのスタイルのセット値になります。また、リズムをスタートさせた後にスタイル変更すると、前のスタイルのテンポが維持されます。

★[▼]と[▲]ボタンを同時に押すと、そのスタイルのセット値に戻ります。

シンクロスタート

演奏と同時にリズムをスタートさせることができる機能です。

- ①リズムを選んだ後、シンクロスタートボタンを押します。
シンクロスタンバイの状態になり、ビートランプの左側のLEDがテンポと同じ速さで点滅します。



②演奏の開始

キースプリットポイントより左の伴奏用鍵盤を押鍵して演奏を開始すれば、リズムも同時にスタートします。

- ★シンクロスタンバイを解除する場合は、ストップボタンを押します。
- ★リズムをスタートさせた後にこのボタンを押すと、シンクロスタンバイ状態に変わってリズムが停止します。

イントロ/エンディング

選んだリズムに応じたイントロを加えてスタートさせたり、エンディングパターンで終了させることができます。

- 🎵 リズムを止めた状態(シンクロスタンバイ中も同様)でイントロ/エンディングボタンを押すと、選んだリズムにふさわしい2小節分のイントロパターンからリズムが鳴りだします。
- 🎵 リズムが鳴っている時にこのボタンを押すと、2小節のエンディングパターンが鳴って停止します。小節の終わり頃にボタンを押すと、次の小節の頭からエンディングパターンになります。
- 🎵 リズムが鳴っている時にイントロ/エンディングボタンを2回連続して押すと、次第にテンポが遅くなって止まります。(リタルダンド)

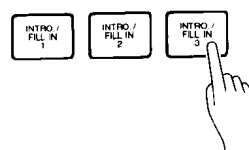


- ★エンディング中にイントロ/フィルインボタンを押すと、リズムパートがフィルインと入れ替わり、次の小節から通常パターンに戻るためリズムは停止しません。

イントロ/フィルイン1~3

フィルインパターンが得られる機能で、その小節の終わりまで入ります。3種類のパターンがあります。

- 🎵 リズムを止めた状態でイントロ/フィルイン1~3のいずれかひとつのボタンを押すと、それぞれのイントロパターンが鳴ってリズムがスタートします。
- 🎵 リズムをスタートさせた後にいずれかのボタンを押すと、押し直後にフィルインパターンが1小節鳴ります。押し続けるとフィルインパターンが長く続きます。



フィルイン1 :リズムパターンのみ変化。
フィルイン2・3:リズム、ベース、コードパターンが変化。
オートベースコードを使っているときに有効です。

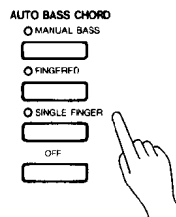
- ★フィルインは、選んだリズムにふさわしいパターンが得られるようになっています。
- ★フィルイン中にこのボタンをもう一度押すとフィルインパターンは解除され、普通のパターンに戻ります。

オートベースコードを使ってみましょう

コードパターンとベースパターンがリズムに連動して自動的に得られる機能で、3つのモード(弾き方)があります。

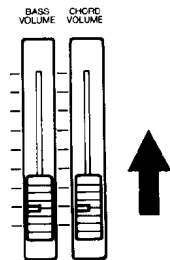
モード(弾き方)の選択

①オートベースコードの中からモードをひとつ選びます。



★フィンガードまたはシングルフィンガーを選んだ場合、メモリー機能(鍵盤から手を離してもオートベースコードが働く機能)が自動的にセットされます。

②ベースボリュームとコードボリュームを調節します。



★マニュアルベースはベース音のみです。

3つのモード

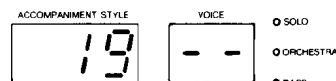
- ①マニュアルベース : ベースラインを自分で弾きたいときに使います。
★後着優先で単音発音します。
- ②シングルフィンガー: 鍵盤を一つ押さえるだけで、メジャーコードによる自動伴奏が得られる機能です。その他のコードでも2~3鍵押さえるだけです。(25ページ参照)
- ③フィンガード : 普通にコードを押さえて自動伴奏させる機能で、コード演奏になれている人に最適です。(27ページ参照)

アカンパニメントスタイルを選択

①アカンパニメントスタイルを選びます。(22ページ参照)

★シングルフィンガーまたはフィンガードの場合、アカンパニメントスタイルを選ぶと、自動的にそのスタイルにふさわしいベース音が選ばれます。(ベース音の音色番号は、ボイスセレクトでベースが選ばれている時に、LEDディスプレイに表示されます。)

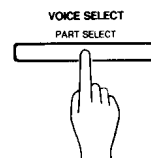
★LEDディスプレイに“—”が表示された時は、パネルに表示されていないアカンパニメント専用のベース音色です。(例:スタイルNo.19→コンテンポラリーソウル)



ベースボイスの選択

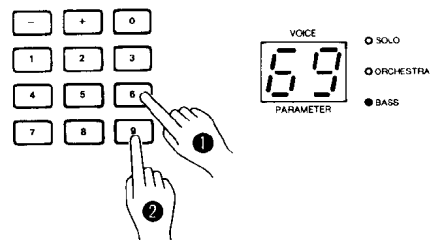
マニュアルベースの時や、シングルフィンガー、フィンガードのベース音を任意のものに変更する場合の操作方法です。

①ボイスセレクトのパートセレクトボタンを押して、2桁LEDディスプレイの右にあるベースのLEDランプを点灯させます。



②音色を選びます。

ボイスリストの中からベースの音色を選び、その番号を[+]、[-]または[0]~[9]のボタンで指定します。音色番号は2桁LEDディスプレイに表示されます。



スプリットポイントの設定

- 🎵 キースプリットボタンで、オートベースコード用鍵盤の範囲を指定します。
また、任意のスプリットポイント(11ページ参照)を設定することもできます。



- ★フィンガードまたはシングルフィンガーを選んだ場合、スプリットポイントより左側がオートベースコード用鍵盤になります。

さあ弾いてみましょう!

①リズムスタートスタンバイ

下記のようなスタート方法がありますが、シンクロスタートを選ぶと、リズムと自動伴奏を同時にスタートさせることができ、とても便利です。

- ・スタート
- ・シンクロスタート
- ・イントロ/エンディングスタート
- ・イントロ/フィルイン1~3スタート

②演奏の開始

オートベースコード鍵盤を押さえると、自動伴奏が始まります。

- ★イントロが鳴っている最中は、オートベースコード鍵盤を押さえても自動伴奏音は出ませんが、イントロ終了後に伴奏音が出ます。
- ★コードを変える時、鍵盤から指を離さないで動かすと、コードが思いどおりに変わらないことがあります。鍵盤から指を一旦離れた上で、次の鍵盤を押すようにしてください。
- ★オートベースコード鍵盤から指を離しても、そのコードの伴奏が続きます。つまり低音側の鍵盤は、コードを変える時だけ押せばOKです。
- ★演奏を終了する時は、リズムを停止させる時と同様に、ストップやイントロ/エンディングボタンを押して自動伴奏を終了させます。

ソロボイス、オーケストラボイスの発音数

- ・ソロボイスとオートベースコードがオフの場合は、オーケストラ音色の音を最大8音まで同時に鳴らすことができます。

- ・上の状態の時にソロボイスをオンにすると、オーケストラ音色の音を最大7音まで同時に鳴らすことが可能になります。さらにオートベースコードをオンにすると、オーケストラ音色の音は最大で4音のみ同時に鳴らすことが可能になります。

バリエーション

- 🎵 バリエーションボタンを押すことで、LEDディスプレイに呼び出しているアカンパニメントのバリエーションパターンを楽しむことができます。



- ★バリエーションパターンでは、リズムは変化せずにコードとベースのパターンが変化します。
- ★バリエーションを切る時は、再びバリエーションボタンを押して、ランプを消灯させて下さい。

トゥーローとオートベースコードとの関係

オートベースコード時にトゥーロー機能を使うと、各モードに応じて低音鍵盤部の音が下記のようにオーケストラ音色で鳴るようになります。(高音鍵盤部の音色はソロ音色です。)

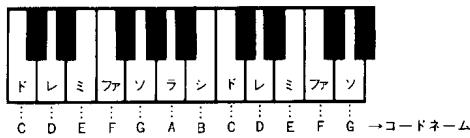
- ・マニュアルベースの時
手弾きベース音(単音後着優先)がオーケストラ音色で鳴ります。
 - ・シングルフィンガーの時
シングルフィンガーコードの構成音(3音)がオーケストラ音色で鳴ります。
 - ・フィンガードの時
フィンガードの構成音に対して1オクターブ高い音が、最大4音オーケストラ音色で鳴ります。
- ★構成音とは、押さえた鍵盤から自動的に構成されるコードの1つ1つの音のことです。

シングルフィンガーコードについて

シングルフィンガーモードの場合には、オートベースコードの鍵盤を次のように押します。

メジャーコードの時

CやFなど、大文字だけで書かれた和音(コード)をメジャーコードといい、明るい調子になります。メジャーコードの時は、1つの鍵盤を押さえるだけです。下図は、各オートベースコード用鍵盤を押した時に出る和音を示したものです。



#、bの付いたコードの時

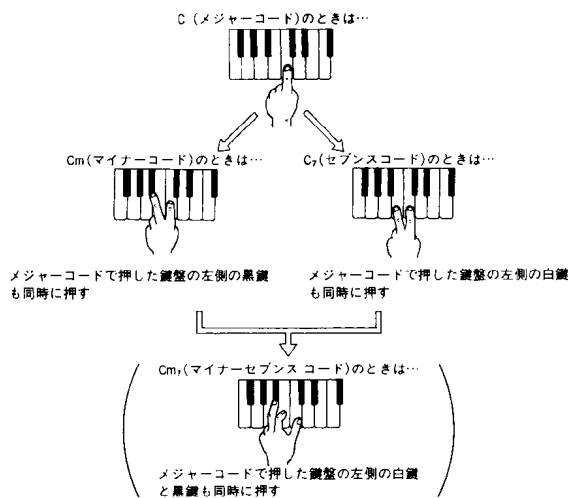
#が付いたコードの場合は上の図で示した鍵盤の右上の黒鍵を、bが付いたコードの場合は左上の黒鍵を押します。

マイナーコードの時

AmやDmなど、小文字のmが付いた和音をマイナーコードといい、もの悲しい調子になります。マイナーコードの時は、メジャーコードの時に押す鍵盤の他に、その左側の黒鍵(どれでもよい)を同時に押します。

セブンスコードの時

G7やD7など、数字の7が付いた和音をセブンスコードといい、曲によっては響きを変えるために使います。セブンスコードの時は、メジャーコードの時に押す鍵盤の他に、その左側の白鍵(どれでもよい)を同時に押します。



※詳しくは、27ページの一覧表をご覧ください。

フィンガードコードについて

フィンガードモード時には、次の種類のコードを検出できます。なお、()内の音は弾かずに省略しても検出されます。

(例)Cコードの場合

メジャーコード ★ C	マイナーコード ★ Cm	セブンスコード ★ C7	マイナーセブンスコード Cm7	メジャーセブンスコード ★ CM7
マイナーセブンスフラットテッドフィフスコード Cm7 ^{b5}	セブンスサスフォーコード ★ C7sus4	オーギュメントコード Caug	ディミニッシュコード Cdim	マイナーメジャーセブンスコード ★ CmM7
シックスコード C6	マイナーシックスコード Cm6	セブンスフラットテッドフィフスコード C7 ^{b5}		

※★印のコードは、転回形も検出されます。なお、dimコードとaugコードは、押さえた鍵盤の最低キーが根音として検出されます。

※例えば、C6とAm7のように構成音が同じコードの場合、最低音が6thの根音になっていると6(シックス)コードとして検出され、その他の場合は全てm7(マイナーセブンス)コードとして検出されます。


※m7-5とm6は構成音程が同じため、最低音がm6の根音になっているとm6として検出され、その他の場合は全てm7-5として検出されます。


※7-5は押鍵の最低音が根音または短7度の音として検出されます。


コード早見表 スプリットポイントをG#2とA2の間にした場合の早見表です。


シングルフィンガーコード


メジャー コード


C 


C[♯] (D[♭]) 


D 


D[♯] (E[♭]) 


E 


F 

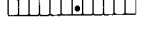
F[♯] (G[♭]) 

G 


G[♯] (A[♭]) 


A 


A[♯] (B[♭]) 


B 


マイナー コード


Cm 


C[♯]m (D[♭]m) 


Dm 


D[♯]m (E[♭]m) 


Em 


Fm 


F[♯]m (G[♭]m) 

Gm 


G[♯]m (A[♭]m) 


Am 


A[♯]m (B[♭]m) 


Bm 


セブンス コード


C₇ 


C[♯]₇ (D[♭]₇) 


D₇ 


D[♯]₇ (E[♭]₇) 


E₇ 


F₇ 

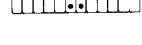
F[♯]₇ (G[♭]₇) 

G₇ 


G[♯]₇ (A[♭]₇) 


A₇ 


A[♯]₇ (B[♭]₇) 


B₇ 


マイナー セブンス コード


Cm₇ 


C[♯]m₇ (D[♭]m₇) 


Dm₇ 


D[♯]m₇ (E[♭]m₇) 


Em₇ 


Fm₇ 


F[♯]m₇ (G[♭]m₇) 

Gm₇ 

G[♯]m₇ (A[♭]m₇) 

Am₇ 


A[♯]m₇ (B[♭]m₇) 


Bm₇ 


フィンガードコード


* マークの付いたコードは転回形、それ以外は全て基本形で書かれています。


メジャー コード


C 


C[♯] (D[♭]) 


D 


D[♯] (E[♭]) 


E 


F 


F[♯] (G[♭]) 

G 


G[♯] (A[♭]) 


A 


A[♯] (B[♭]) 


B 


マイナー コード


Cm 


C[♯]m (D[♭]m) 

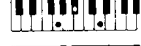
Dm 


D[♯]m (E[♭]m) 

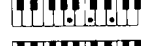
Em 


Fm 


F[♯]m (G[♭]m) 

Gm 


G[♯]m (A[♭]m) 


Am 


A[♯]m (B[♭]m) 


Bm 


セブンス コード


C₇ 


C[♯]₇ (D[♭]₇) 


D₇ 


D[♯]₇ (E[♭]₇) 


E₇ 


F₇ 

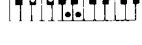
F[♯]₇ (G[♭]₇) 

G₇ 


G[♯]₇ (A[♭]₇) 


A₇ 


A[♯]₇ (B[♭]₇) 


B₇ 


マイナー セブンス コード


Cm₇ 


C[♯]m₇ (D[♭]m₇) 


Dm₇ 


D[♯]m₇ (E[♭]m₇) 


Em₇ 


Fm₇ 


F[♯]m₇ (G[♭]m₇) 

Gm₇ 


G[♯]m₇ (A[♭]m₇) 


Am₇ 


A[♯]m₇ (B[♭]m₇) 


Bm₇ 


メジャー セブンス コード


CM₇ 


C[♯]M₇ (D[♭]M₇) 


DM₇ 


D[♯]M₇ (E[♭]M₇) 


EM₇ 


FM₇ 


F[♯]M₇ (G[♭]M₇) 

GM₇ 


G[♯]M₇ (A[♭]M₇) 


AM₇ 


A[♯]M₇ * (B[♭]M₇) 


BM₇ * 


オーギュメント コード


Caug 


C[♯]aug (D[♭]aug) 


Daug 

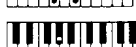
D[♯]aug (E[♭]aug) 


Eaug 


Faug 


F[♯]aug (G[♭]aug) 

Gaug 


G[♯]aug (A[♭]aug) 


Aaug 


A[♯]aug (B[♭]aug) 


Baug 


ディミニッシュ コード


Cdim 


C[♯]dim (D[♭]dim) 


Ddim 

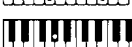
D[♯]dim (E[♭]dim) 


Edim 

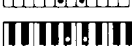
Fdim 


F[♯]dim (G[♭]dim) 

Gdim 


G[♯]dim (A[♭]dim) 


Adim 


A[♯]dim (B[♭]dim) 


Bdim 


シックス コード


C₆ 


C[♯]₆ (D[♭]₆) 


D₆ 


D[♯]₆ (E[♭]₆) 

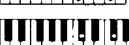
E₆ 

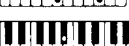
F₆ 


F[♯]₆ (G[♭]₆) 

G₆ 


G[♯]₆ (A[♭]₆) 


A₆ 


A[♯]₆ (B[♭]₆) 


B₆ 


マイナー メジャー セブンス コード


CmM₇ 


C[♯]mM₇ (D[♭]mM₇) 


DmM₇ 


D[♯]mM₇ (E[♭]mM₇) 

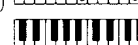
EmM₇ 

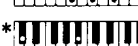
FmM₇ 

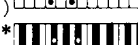
F[♯]mM₇ (G[♭]mM₇) 

GmM₇ 


G[♯]mM₇ (A[♭]mM₇) 


AmM₇ 


A[♯]mM₇* (B[♭]mM₇) 


BmM₇* 


マイナー セブンス フラットテッド ファイブ コード


Cm₇⁻⁵ 


C[♯]m₇⁻⁵ (D[♭]m₇⁻⁵) 


Dm₇⁻⁵ 


D[♯]m₇⁻⁵ (E[♭]m₇⁻⁵) 


Em₇⁻⁵ 

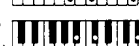
Fm₇⁻⁵ 


F[♯]m₇⁻⁵ (G[♭]m₇⁻⁵) 

Gm₇⁻⁵ 


G[♯]m₇⁻⁵ (A[♭]m₇⁻⁵) 


Am₇⁻⁵ 


A[♯]m₇⁻⁵ (B[♭]m₇⁻⁵) 


Bm₇⁻⁵* 


マイナー シックス コード


Cm₆ 


C[♯]m₆ (D[♭]m₆) 

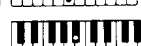
Dm₆ 


D[♯]m₆ (E[♭]m₆) 


Em₆ 


Fm₆ 


F[♯]m₆ (G[♭]m₆) 

Gm₆ 


G[♯]m₆ (A[♭]m₆) 


Am₆ 


A[♯]m₆ (B[♭]m₆) 


Bm₆ 


セブンス サスフォー コード


C₇SUS₄ 


C[♯]₇SUS₄ (D[♭]₇SUS₄) 


D₇SUS₄ 

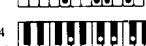
D[♯]₇SUS₄ (E[♭]₇SUS₄) 


E₇SUS₄ 


F₇SUS₄ 


F[♯]₇SUS₄ (G[♭]₇SUS₄) 

G₇SUS₄ 


G[♯]₇SUS₄ (A[♭]₇SUS₄) 


A₇SUS₄ 


A[♯]₇SUS₄ (B[♭]₇SUS₄) 


B₇SUS₄* 


セブンス フラット ファイブ コード


C₇⁻⁵ 


C[♯]₇⁻⁵ (D[♭]₇⁻⁵) 


D₇⁻⁵ 

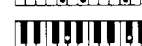
D[♯]₇⁻⁵ (E[♭]₇⁻⁵) 


E₇⁻⁵ 

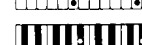
F₇⁻⁵ 


F[♯]₇⁻⁵ (G[♭]₇⁻⁵) 

G₇⁻⁵ 

G[♯]₇⁻⁵ (A[♭]₇⁻⁵) 

A₇⁻⁵ 

A[♯]₇⁻⁵ (B[♭]₇⁻⁵) 

B₇⁻⁵* 

打楽器の音を出してみよう(ドラムパッド)

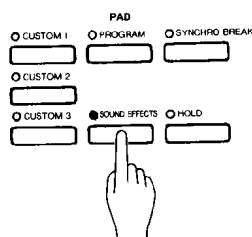
ドラムパッドを叩くだけで、打楽器音(40種類)や効果音(16種類)を鳴らすことができます。

サウンドエフェクト

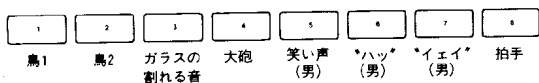
小鳥の鳴き声、クラクション、笑い声など16種類の効果音があります。

①パッドのサウンドエフェクトボタンを押して、ランプを点灯させます。

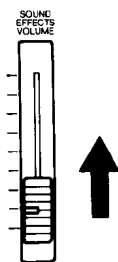
★電源投入時は、サウンドエフェクトがオンの状態になっています。



8個のドラムパッドには、8種類の効果音があらかじめプリセットされています。



②サウンドエフェクトボリュームで音量を調節します。



③それぞれのパッドを叩いて、音を出します。

★リズムが鳴っている最中にパッドを押すと、場合によってパッドの音が短くなる場合があります。

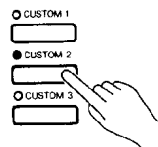
★ホールドボタンをオンにしてパッドを叩くと、その効果音はループしながら鳴ります。(ループとは繰り返すことです。)

ループのスピードは、リズムのテンポと同期します。



④スイッチオフ

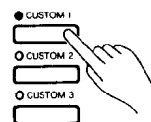
カスタム1~3のボタンをどれかひとつ押すと、サウンドエフェクトがオフになります。



マニュアルパーカッション

ドラムス(白鍵)とラテンパーカッション(黒鍵)を合わせて、40種類の打楽器の音を鳴らすことができます。

①パッドのカスタム1~3のボタンを、どれかひとつ押します。

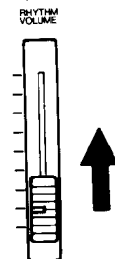


★カスタム1、2、3には、次の楽器音がプリセットされています。

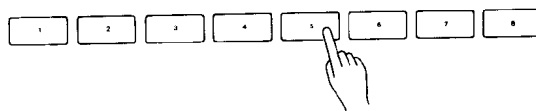
プリセット(内蔵)されている楽器音

カスタム1: リムショット、タム(低)、タム(中)、タム(高)、スネア(ヘヴィー)、ハイハットクローズ、ハイハットオープン、クラッシュシンバル
 カスタム2: バスドラム、シンセタム(低)、シンセタム(中)、シンセタム(高)、スネア(ゲートエコー)、スネア(ライト)、タンバリン、ライドシンバル
 カスタム3: アゴゴ(低)、アゴゴ(高)、クイーカ(低)、クイーカ(高)、コンガ(高)、カバサ、ハンドクラップ、サンバホイッスル(高)

②リズムボリュームで音量を調節します。



③それぞれのパッドを押して、音を出します。



オリジナルの伴奏パターンをつくりましょう

(カスタムアカンパニメント)

カスタムアカンパニメント機能を使えば、リズム、ベース、コードの3パートをそれぞれ好きな音色・パターンで入力し、自分だけの伴奏パターンを5セット作ることができます。

プログラムの準備

①基本にするアカンパニメントスタイル(伴奏パターン)を選びます。

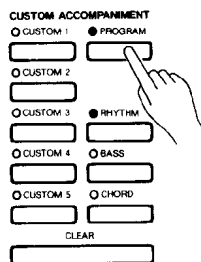
リズムを選択する時と同様、リズムを呼び出します。

★カスタム1~5を押して、作成済みのパターンを選ぶこともできます。

②カスタムアカンパニメントのプログラムボタンを押してランプを点灯させます。

自動的にリズムをプログラムできる状態となり、オートベースコードによるCメジャーの自動伴奏が2小節単位で繰り返し鳴り出します。

(5拍子のリズムの場合は1小節)



★リズム、ベース、コードのどのパターンからでもプログラムできますが、2つ以上のパートを同時にプログラムすることはできません。

★ワルツ(3/4)で4拍子のパターン、12/8拍子で8ビートのパターンなど、各リズムで作れないパターンがあります。

★プログラムをオンにすると、スタイルによってはコード音が元のパターンと変わるものがあります。

★プログラム中は、アカンパニメントスタイルを変更することはできません。

③入力しやすいテンポにします。

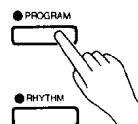
プログラムモードの解除

下のいずれかの操作を行うことにより、プログラム状態を解除できます。

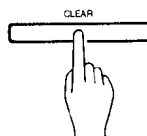
- ・プログラムボタンをもう一度押す。
- ・リズムのストップボタンを押す。
- ・ミュージックプログラマーのレコードボタンを押す。
- ・ミュージックプログラマーのプレイボタンを押す。
- ・デモンストレーションボタンを押す。

リズムパターンの作成

①プログラムボタンを押すと、同時にリズムボタンもオンになり、リズムパターンの入力待ちとなります。



②リズムを最初から作りたい時は、クリアボタンを押します。リズムパターンが消えて、4分音符単位でハイハットクローズがメトロノーム音として鳴ります。



★ベース音とコード音は消えないで鳴り続けます。

★ベース音、コード音を消したい時には、ベースボリューム、コードボリュームを絞るか、オートベースコードをオフにしてください。

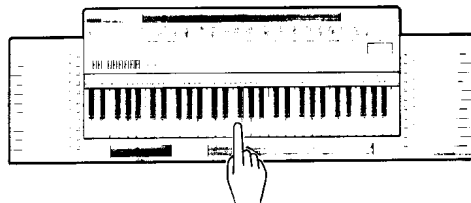
★メトロノーム音はプログラムされません。

★クリアボタンを押さずに、鳴っているリズムパターンの上からかぶせることもできます。

★キャンセル鍵盤(C6)を押しながら、消したい打楽器音や効果音に対応する鍵盤を押すと、その打楽器音だけをパターンから消すことができます。

③入力しようと思う打楽器音または効果音をパネルイラストから選び、対応する鍵盤やパッドを押してリズムパターンを入力します。

タイミングを合わせながら鍵盤やパッドを押して、2小節パターン(5拍子リズムの場合は1小節)を作ります。



★16分音符の単位まで入力できます。それ以上細かく押しても入力できません。

★1音1音強さを変えたい場合は、キーペロシティーをオンにしてから入力します。すると、鍵盤を押す強さで音の大きさが決まるようになります。

★一度作成したリズムに後からアクセントをつけたい場合は、アクセントを付けたいところで>マークのアクセント用鍵盤(B5)を押してください。そのタイミングで鳴っている打楽器音および効果音全てにアクセントが付きま

す。また、キャンセル用鍵盤(C6)を押しながらアクセント用鍵盤を押せば、入力したアクセントがキャンセルできます。

★ひとつのリズムパターンに入力できる打楽器音および効果音の種類は、合計8種類までです。

ベースパターンの作成

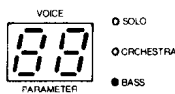
①カスタムアカンパニメントのベースボタンを押してランプを点灯させます。

ベースパターンの入力待ちとなります。



②パートセレクトボタンを押してベース音色を選択できる状態にします。

2桁LEDディスプレイにベースの音色ナンバーが表示されます。



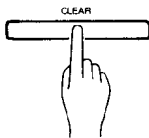
③ベースの音色を選びます。

音色を選択するときと同様、ベースの音色をLEDディスプレイに呼び出します。(9ページ参照)

★プログラム状態であれば、音色はいつでも変更できます。

④クリアボタンを押します。

ベースパターンが消えます。



★クリアせずに、鳴っているベースパターンの上からかぶせることもできます。

⑤鍵盤を弾いてベースパターンを入力します。

タイミングを合わせながらC1~F#3の鍵盤を押し、2小節パターンを入力します。(5拍子の場合は1小節です。)



この範囲で演奏します(C1~F#3)

★ベースパターン入力用の鍵盤はC1~F#3の鍵盤ですが、入力できる鍵盤の種類は、1パターン中最高15キーです。

★入力できるのはCメジャーパターンだけです。

★16分音符の単位まで入力できます。それ以上細かく弾いても入力できません。

★入力したベースパターンにアクセントをつける場合、アクセントを付けたいところで>マークのアクセント用鍵盤(B5)を押してください。ただし、音色によっては音質が変化するものもあります。また、キャンセル用鍵盤を押しながらアクセント用鍵盤を押せば、入力したアクセントをキャンセルできます。

★キーベロシティオンの状態で入力すれば、鍵盤を弾く強さを表現して記憶できます。

コードパターンの作成

コードパターンの入力方法には、フィンガードコードでプログラムする方法とシングルフィンガーコードでプログラムする方法の2パターンあります。

なおコードのパターンは、ブロックのパートとアルペジオのパートの2種類作ることができます。ブロックパターンはシングルフィンガーモードにて、また、アルペジオパターンはブロックパターンにします。

①カスタムアカンパニメントのコードボタンを押してランプを点灯させます。

コードパターンの入力待ちとなります。

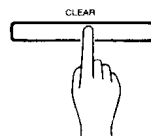


②コードの音色を選びます。

音色を選択する時は、フィンガードモード時はボイスセレクトのパートをオーケストラ音色の状態、シングルフィンガー時はソロ音色の状態にして、音色番号を入力します。(音色の種類は、パネルに表示されているものとは違います。)

③クリアボタンを押します。

コードパターンのうちフィンガードモード時は、アルペジオパターンのみ消えます。またシングルフィンガーモード時は、ブロックのパターンが消えます。



★クリアしないで、鳴っているコードパターンの上からかぶせることもできます。

④-1 フィンガードコードで入力する場合。

●鍵盤を弾いてコードパターンを入力します。

タイミングを合わせながらC1～C6の鍵盤を押し、2小節パターンを入力します。(5拍子の場合は1小節です。)



この範囲で演奏します(C1～C6)

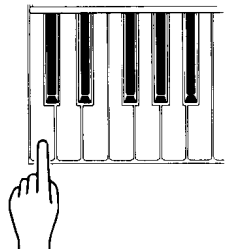
- ★フィンガードコード入力用の鍵盤はC1～C6、同時発音は3音までです。
- ★入力できるのはCメジャーパターンだけです。
- ★32分音符の単位まで入力できます。それ以上細かく弾いても入力できません。
- ★キーベロシティーオン時は、パターン入力時の押鍵の強さで記憶されます。

④-2 シングルフィンガーコードで入力する場合

●C1の鍵盤を弾いてコードパターンを入力します。

(入力できる鍵盤はC1の鍵盤のみです。)

タイミングを合わせながらC1の鍵盤を押し、2小節パターンを入力します。(5拍子の場合は1小節です。)



- ★入力できるのはCメジャーパターンだけです。
- ★16分音符の単位まで入力できます。それ以上細かく弾いても入力できません。
- ★アクセントを付ける場合、アクセントを付けたいところで>マークのアクセント用鍵盤(B5)を押してください。また、キャンセル用鍵盤を押しながらアクセント用鍵盤を押せば、入力したアクセントはキャンセルされます。
- ★キーベロシティーオン時は、タイミング入力時の押鍵の強さで記憶されます。

●フィンガードコード時の入力音色

(パートセレクトがオーケストラ音色の時に変更可能。)

入力番号	音色	入力番号	音色
00	PIANO	13	HORN
01	ELEC. PIANO 1	14	BRASS ENSEMBLE
02	ELEC. PIANO 2	15	SYNTH BRASS
03	MARIMBA	16	ROCK ORGAN
04	VIBES	17	JAZZ ORGAN
05	STRINGS	18	FOLK GUITAR
06	VIOLIN	19	JAZZ GUITAR
07	HARP	20	ROCK GUITAR
08	FLUTE	21	BANJO
09	SAXOPHONE	22	CRYSTAL
10	ACCORDION	23	DISTORTION GUITAR
11	TRUMPET	24	HARMONICA
12	TROMBONE	25	CLAVI

●シングルフィンガー時の入力用音色

(パートセレクトがソロ音色の時に変更可能。)

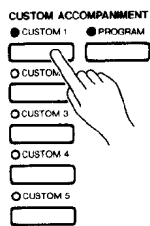
入力番号	音色	入力番号	音色
00	PIANO	12	JAZZ ORGAN
01	ELEC. PIANO 1	13	HUMAN VOX
02	ELEC. PIANO 2	14	CLASSIC GUITAR
03	HARPSICHORD	15	FOLK GUITAR
04	STRINGS	16	JAZZ GUITAR
05	TRUMPET	17	ROCK GUITAR
06	TROMBONE	18	DISTORTION GUITAR
07	BRASS ENSEMBLE	19	MUTE GUITAR
08	MARIMBA	20	BANJO
09	SYNTH BRASS 1	21	KOTO
10	SYNTH BRASS 2	22	VIBES
11	ROCK ORGAN		

- ★プログラム状態であれば、音色の変更はいつでもできます。

セーブ

作成した伴奏パターンを保存します。

- プログラムボタンオンの状態で、カスタム1～5のいずれかのボタンを押してランプを点灯させると、点灯したカスタム番号のところに保存されます。



- ★前に保存してあったパターンは自動的に消されます。
- ★セーブが終わったら、プログラムモードを解除してください。

再生

保存した伴奏パターンを呼び出します。

- ①伴奏パターンを保存したカスタム番号のボタンを押します。3桁LEDディスプレイが、カスタムアカンパニメントの表示になります。



- ②オートベースコードを機能させて、弾いてみましょう。

- ★シンクロスタートをオンにしておけば、鍵盤を押さえると同時に伴奏が始まるので便利です。
- ★カスタムアカンパニメントでプログラムした伴奏パターンに対するイントロ/フィルイン1~3およびイントロ/エンディングは、プログラムする前にセレクトされていた元のパターンのものになります。

カスタムアカンパニメントを入力してみましょう。

カスタムアカンパニメントで、実際に簡単な8ビートバックングを作ってみましょう。

- ①スタイル番号03のポップロック1を選びます。



リズムの記譜のしかた



- ②プログラムボタンを押します。
- ③リズムをクリアして、上の譜面のリズムパートを演奏します。
- ④ベースをクリアして、上の譜面のベースのパートを演奏します。
- ⑤コードをクリアして、上下の譜面のコードのパートを演奏します。
- ⑥カスタム1にセーブします。

演奏を録音してみましよう<ミュージックプログラマー>

ミュージックプログラマー機能を使えば、ソロボイス、オーケストラボイス、アカンパニメント、ベースの各パートの演奏をそれぞれ独立して記憶させることができます。また、数パートを同時に演奏して記憶させることもできます。そして、記憶させた各パートの演奏は同時に再生することができます。記憶領域は全部で4つ(4トラック)あります。なお、この4つのトラックには、それぞれレコードとプレイの2つのモードがあります。(4曲まで記憶させることができます。)

各トラックの特徴

★各トラック共に、各パートに関するパネル上の設定(ボタン、スイッチ等の設定)もいっしょに記憶されます。

★アカンパニメント再生とベース再生を同時に行うと、ベース/オーケストラのベースパートが優先して再生されます。

ソロ:

ソロパートの演奏を録音・再生できます。

オーケストラ:

オーケストラパートの演奏を録音・再生できます。

アカンパニメント/オーケストラ:

アカンパニメント(伴奏)パートまたはオーケストラパートの演奏を録音・再生できます。

★オートベースコード機能をオフにした場合は、オーケストラパートの録音モードとなり、オーケストラ音を最大2音同時発音で録音できます。

ベース/オーケストラ:

ベースパートまたはオーケストラパートの演奏を録音・再生できます。

★ベースパートは、他のパートと同時に録音することはできません。

★オートベースコード機能をオフにした場合は、オーケストラパートの録音モードとなり、オーケストラ音を単音発音で録音できます。

標準的なレコーディング例

<詳しい操作方法は、本ページの右段をご覧ください。>

例1/パート録音 & パート再生

まず基本となるパートを録音したら、それをモニターしながら他のパートを順に録音していきます。

①伴奏パートを録音

アカンパニメント/オーケストラトラックに、自動伴奏(リズム、ベース、コード)パートを録音します。

②ソロ演奏の練習

①で録音した自動伴奏パートを再生させながら、ソロ音色でメロディーの練習をします。

③ソロ演奏を録音

①で録音した自動伴奏パートを再生させながら、ソロトラックにソロ音色でメロディーを録音します。

④オーケストラ演奏の練習

①で録音した自動伴奏パートと③で録音したソロパートを再生させながら、オーケストラ音色でオブリガートの練習をします。

⑤オーケストラ演奏の録音

①で録音した自動伴奏パートと③で録音したソロパートを再生させながら、オーケストラトラックにオーケストラ音色でオブリガートを録音します。

⑥全パートを再生

3つのトラックに録音した各パートの演奏を一斉に再生させてみます。

★アカンパニメント/オーケストラ、ソロ、オーケストラの3つのトラックに録音できましたが、全パート同時録音の場合とは、3つのトラックの使い方が異なります。なぜなら、全パート同時録音の場合は右手でメロディーとオブリガートを同時に演奏することは困難であることと、ソロとオーケストラの鍵盤が限定されるためです。

★アカンパニメント/オーケストラトラックを使って、もう1種類のオーケストラ演奏を録音することができます。(合計で2種類のオーケストラ演奏を録音できることになります。)

例2/ベースパートを自分で弾いたベースラインに置き換える時の例です。

①ベースパートの練習

<例1>で録音した自動伴奏パートを再生させながら、ベース音色でベースパートの練習をします。

②ベースパートを録音

<例1>で録音した自動伴奏パートを再生させながら、ベース/オーケストラトラックに、ベースパートを録音します。(この時、自動伴奏パートのベースは再生されません。)

③全パートの再生

4つのトラックに録音した各パートの演奏を一斉に再生させてみます。(この時、自動伴奏パートのベースパートは再生されずに、録音した方のベースパートが再生されます。ただしベース/オーケストラトラックを再生状態にしなければ自動伴奏のベースパートが再生されます。)

★ベース/オーケストラトラックをオーケストラモードにすると、オーケストラ演奏の録音モードになります。

★アカンパニメント/オーケストラトラック、およびベース/オーケストラトラックを録音状態にして、オートベースコードをオフにすると、オーケストラモードになりますが、オーケストラトラックを録音状態にして録音すれば、合わせて3種類のオーケストラ演奏を録音できます。また、この状態で3トラックを同時に録音すれば、同時発音数7音で録音することができます。

★アカンパニメント/オーケストラ、またはベース/オーケストラのどちらかのパートをオートベースコードオフ(オーケストラ)の状態にして録音してある場合は、そのパートを再生させながらもう一つのパートをオートベースコードオン(アカンパニメント)の状態にして録音することはできません。また、別々に録音することはできますが、同時に再生することはできません。

★アカンパニメント/オーケストラ、またはベース/オーケストラのどちらかのパートをオートベースコードオン(アカンパニメントまたはベース)として録音してある場合は、そのパートを再生させながらもう一つのパートをオートベースコードオフ(オーケストラ)の状態にして録音することはできません。また、別々に録音することはできますが、同時に再生することはできません。

全パート同時録音

まず最初に、全パートを同時に演奏して録音する方法を紹介します。演奏は、オートベースコード演奏の要領で行います。

①レジストレーションをセット

パネル上の設定を行います。なお、設定した内容をレジストレーションメモリーに記憶させておけば、録音の途中でパネルの設定変更が簡単にでき、大変便利です。

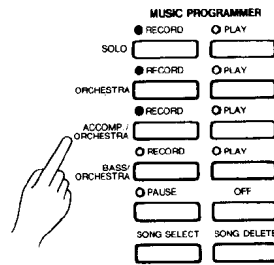
②ソロ、オーケストラ、アカンパニメント/オーケストラのレコードボタンを押します。

メトロノーム音として4分音符単位でハイハットクローズが鳴り出し、ビートLEDの1拍目が点滅します。(シンクロスタンバイ状態になります。)

アカンパニメント/オーケストラを録音状態にすると、自動的にアカンパニメントを録音できる状態になり、シングルフィンガーがセットされます。この時、フィンガードやオフにすることもできますが、マニュアルベースにすることはできません。オフにした場合は、オーケストラのモードとなり、オーケストラ演奏を最大同時発音数6音の範囲で録音できます。

★2桁LEDには、曲番号が表示されます。(→39ページ参照)

★3桁LEDには、メモリーの残量(最大47)が表示されます。



各トラックに同時に記憶できる発音数は下記のとおりです。

ソロ : 1音、高音優先。

オーケストラ : 4音、後着優先。

アカンパニメント: オートベースコードのモードに準じる。

ベース : 1音、後着優先。

★ベースパートの録音時には、全ての鍵盤が独占されるため、他のパートを同時に録音することはできません。

③録音を始めます。

次のいずれかの方法で、録音を開始します。

- ・鍵盤をどれかひとつ押す。
- ・リズムのスタートボタンを押す。
- ・イントロ/エンディングボタンを押す。
- ・イントロ/フィルイン1~3いずれかのボタンを押す。

★これらの開始の方法は、全てのトラックに共通です。

★どのトラックに録音する場合でもリズム音が鳴りますが、 unnecessary 場合は、リズムボリュームを最小にしてください。

★録音を開始すると、3桁LEDは小節数表示に変わります。

④必要に応じて、録音中にレジストレーションを変更できます。

レジストレーションは、録音中でも録音待機中でも変更することができます。

レジストレーションの変更には、一つ一つのボタンやスイッチの設定を変更する方法と、レジストレーションメモリーボタンを押す(記憶させた設定を呼び出す)方法の2つの方法があります。

変更する時は、ポーズボタンを押してレコーディングを一時停止させ、レコード待機状態にしてから、レジストレーション変更することをお勧めします。ポーズボタンを押すとメトロノーム音が鳴って、該当する拍のテンポLEDが点滅して録音待機状態になります。



レコーディングを再スタートさせるには、鍵盤を押すか、もう一度ポーズボタンを押してください。

- ★アカンパニメント(自動伴奏)の録音状態の時には、オートベースコードのモード切り替えも記憶されます。
- ★最初から録音をやり直したい時は、ポーズボタンの代わりにシンクロスタートボタンを押します。レコード待機状態になり、再び録音を始めることができます。

⑤録音を終了します。

次のいずれかの方法で録音を終了させてください。

- ・ミュージックプログラマーのオフボタンを押す。
- ・リズムのストップボタンを押す。
- ・イントロ/エンディングボタンを押す。

また、次のいずれかの方法でも録音を解除できます。

- ・各トラックのプレイボタンを押して、それに対応した録音を解除する。
- ・録音状態にある全てのレコードボタンを押す。
- ・記憶容量が一杯になった時、また、同時録音でいずれかのトラックが一杯になった時は、自動的に録音解除されます。

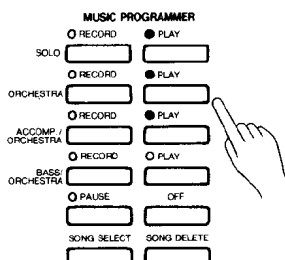
★これらの終了方法は、全トラックに共通です。

全パート同時再生

録音したトラックのプレイボタンを押して再生させます。全パートを再生させる場合は、全てのプレイボタンを押してください。

①ソロ、オーケストラ、アカンパニメント/オーケストラのプレイボタンを押します。

録音済みのトラックのプレイボタンを押すと、テンポLEDの1拍目が点滅する(再生待機状態になる)と共に、記憶されているレジストレーションがパネル上に展開されます。



★再生中も、記憶されているレジストレーションがパネルに展開されます。

②再生を始めます。

次のいずれかの方法で、再生を開始させます。

- ・鍵盤をどれかひとつ押す。
- ・リズムのスタートボタンを押す。
- ・イントロ/エンディングボタンを押す。
- ・イントロ/フィルイン1~3のいずれかのボタンを押す。

★これらの開始の方法は、全てのトラックに共通です。

★全パートを同時再生する場合は、基本的にはリズムのスタートボタンを押してください。

③必要に応じて、再生中にレジストレーションを変更できます。

レジストレーションは、再生中でも再生待機中でも変更することができます。録音時のレジストレーションと異なるレジストレーションで、演奏を再生することができます。レジストレーションの変更には、一つ一つのボタンやスイッチの設定を変更する方法と、レジストレーションメモリーボタンを押す(記憶させた設定を呼び出す)方法の2つの方法があります。

★通常は、ソロ音色とオーケストラ音色を録音時の音色と変えて再生することはできません。

変更する時は、ポーズボタンを押して再生を一時停止させてから、レジストレーション変更することをお勧めします。ポーズボタンを押すとメトロノーム音が鳴り出し、該当する拍のテンポLEDが点滅して再生待機状態になります。

再生を再スタートさせるには、鍵盤を押すか、もう一度ポーズボタンを押してください。

★アカンパニメント(自動伴奏)の再生状態の時には、オートベースコードのモード切り替えは無効です。

★再生中に、他のトラックのプレイボタンを押すと、すでに再生中のトラックに合わせてそこから再生が開始されます。

追加されたトラックは、追加した時点ではそれまでのレジストレーションに従いますが、記憶されているレジストレーションが途中で変わっている場合には、そこからそのレジストレーションに変更され、それに従い再生されます。

④再生を終了させます。

曲が終了すると、再生待機状態に戻ります。

なお再生待機状態は、次の方法で解除させることができます。

- ・ミュージックプログラマーのオフボタンを押す。
- ・リズムのストップボタンを押す。
- ・再生状態にあるトラックのプレイボタンまたはレコードボタンを全て押す。

★これらの解除の方法は、全トラックに共通です。

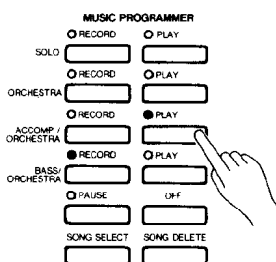
パート録音 ← → パート再生

全パート同時録音で録音済みのアカンパニメント(自動伴奏)を再生させながら、自分でベースパートを弾いて録音してみましょう。(ベースは他のレコードと同時に使うことはできません。)

①ベース/オーケストラトラックのレコードボタンを押します。

ベース/オーケストラのレコードボタンを押すと、自動的にマニュアルベースのモードになります。この時、オートベースコードをオフにすることはできますが、シングルフィンガーやフィンガードに切り替えることはできません。オフにした場合はオーケストラのモードになり、オーケストラ演奏を単音で録音できます。

②アカンパニメントのプレイボタンを押します。



③ベースの音色をボイスリストの中から選びます。

(39ページ参照)

★アカンパニメントを再生させずに、ベースパートを単独に録音する場合も、マニュアルベースの状態からオフの状態にすることはできますが、他のオートベースコードへ切り替えることはできません。

④録音を始めます。

レコーディングの開始方法は、全パート同時録音の場合と同じです。

★アカンパニメントはコード進行が再生されてオートベースは鳴らず、ベースを録音しやすい状態になります。

★ベースの音量はボリュームで調整できます。

ただし、ベースボリュームのデータは、アカンパニメント/オーケストラのトラックにのみ録音されますので、ベースパートのみの録音・再生は記憶されません。

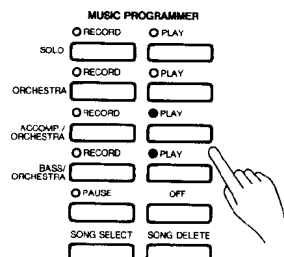
⑤録音を終了します。

録音の終了方法は、全パート同時録音の場合と同じです。

⑥再生

アカンパニメント/オーケストラとベース/オーケストラのプレイボタンを押して、再生の準備をします。

再生の開始方法と停止方法は、全パート同時再生の場合と同じです。



★アカンパニメント(自動伴奏)のベースが、自分で弾いたベースラインに切り替わります。ベースの再生をオフにすると、アカンパニメントに戻ります。

変更(演奏を途中で間違えた時の変更方法)

ここでは前項のベースの録音において、途中で失敗した時に、そのポジションから録音をやり直す方法について説明します。

①アカンパニメント/オーケストラとベース/オーケストラのプレイボタンを押します。

まず、アカンパニメントとベースを再生させます。

②変更したい小節の前でポーズボタンを押します。

ベースの録音に失敗した小節の前でポーズボタンを押して、ベースのトラックを録音状態に切り替えます。

③ベース/オーケストラのレコードボタンを押します。

レコードボタンを押して、ベースラインを弾きます。

★部分的な変更はできませんので、最後まで演奏を続けてください。

★ポーズボタンを押した時に、レジストレーションを変更して記憶させることもできます。

〈ロコモーション〉 THE LOCO-MOTION

作曲：Carole King & Gerry Goffin

5 8 Rock Guitar

4 4 Brass Ensemble

ソロ

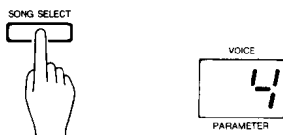
オーケストラ

ベース

日本音楽著作権協会(出)許諾第8971218-901号
© 1962 by SCREEN GEMS-EMI MUSIC INC.
Rights for Japan controlled by Toshiba-EMI
Music Publishing Co., Ltd.

ソングセレクト

曲は4曲まで記憶させることができますが、曲を録音する時はあらかじめソングセレクトボタンを押して、記憶させる先の曲番号を表示させてください。なお、再生時に曲を選ぶ方法も同じです。



- ★録音待機状態の時、現在の曲の番号が2桁LEDディスプレイに表示されます。その状態でソングセレクトボタンを押すと、番号が1→2→3→4→1→2の順に繰り返されます。
- ★再生待機状態でソングセレクトボタンを押すと再生待機状態が解除されます。
- ★録音または再生中でない時にソングセレクトボタンを押すと、現在の曲の番号がLEDディスプレイに表示され、再度押すと番号が繰り返されます。
- ★録音または再生中は、ソングセレクトボタンは機能しません。

ソングデリート

録音した曲(メモリー内容)を削除することができます。削除する時は、録音または再生中でない状態でソングセレクトボタンを押したまま、削除したい曲の番号を表示させながら、ソングデリートボタンを押します。すると、その時表示されていた曲の内容が削除されます。



実際に録音してみましょう!

43ページのレッツ・プレイの練習曲を演奏して、録音してみましょう。
まず最初は、パート別に順次録音していくパート録音で録音。なれてきたら、全パート同時録音で録音してみましょう。

メモリーできる内容

- ソロ
ソロ音色、ソロボリューム、サスティン(1、2)、ピッチベンド、ローラー(モジュレーション、ソロエクスプレッション、マスターエクスプレッションの時)、キーベロシティのオン/オフ
- オーケストラ
オーケストラ音色、オーケストラボリューム、サスティン(1、2)、ピッチベンド、ローラー(オーケストラエクスプレッション、モジュレーション、オーケストラブリリアンス、マスターエクスプレッションの時)、デュエット、キーベロシティのオン/オフ
- アカンパニメント/オーケストラ
〈アカンパニメント/オーケストラ共通内容〉
スタイルセレクト、カスタム(1、2、3、4、5)、イントロ/フィルイン1~3、イントロ/エンディング、リズムボリューム、サウンドエフェクト、サウンドエフェクトボリューム、リバーブ、シンクロブレイク、ホールド、ドラムパッドカスタム(1、2、3)、ドラムパッド、テンポ、キーベロシティのオン/オフ、ローラー(アカンパニメントエクスプレッション、マスターエクスプレッションの時)、アンサンプルのオン/オフ、エディットのオン/オフ
〈アカンパニメント時のみの内容〉
シングルフィンガー/フィンガード、バリエーションのオン/オフ、ベースボリューム、コードボリューム
〈オーケストラ時のみの内容〉
“オーケストラ”の内容と同じ(ただし、デュエットを除く)
- ベース/オーケストラ
〈ベース時〉
ベース音色、キーベロシティのオン/オフ
〈オーケストラ時〉
“オーケストラ”の内容と同じ(ただし、デュエットを除く)

演奏データを保存しましょう (RAMパック)

カスタムアカンパニメントやミュージックプログラマー、レジストレーションメモリーに記憶させた演奏データを別売のRAMパックに保存しておくことができ、いつでも呼び出すことができます。

保存できるデータ

保存できるデータは5つで、番号順にセーブされます。

- ①レジストレーションメモリー1・2・3・4の記憶内容
- ②デジタルシンセサイザーの音色データ
- ③カスタムアカンパニメント1・2・3・4・5の記憶内容
- ④カスタムドラム1・2・3の記憶内容
- ⑤ミュージックプログラマーの各トラックの記憶内容

★①～⑤のデータを全て保存する場合は、RAMパック (RP-5) をお使いください。RAMパック (RP-3) には、①～④のデータしか保存できません。

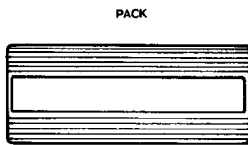
演奏データを保存する

〈トゥーパック操作〉

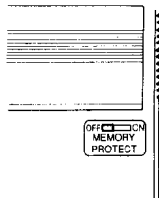
ポータトーンのデータをRAMパックに保存する方法です。

①RAMパックをポータトーンに差し込みます。

ラベル面を前にして、ていねいに差し込んでください。

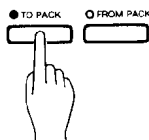


★RAMパックのメモリープロテクトのスイッチがオフになっていることを確認してください。オンになっていると、データを保存することはできません。



②トゥーパックのボタンを押します。

トゥーパックボタンを押すとLEDランプが早く点滅します。そして、もう一度押すとLEDランプが点灯に変わりセーブが開始されます。



★それまでRAMパックに保存されていたデータは、この操作により消去され、新しいデータに置き換わります。消去したくないデータであれば、新しいRAMパックを使用してください。

★セーブ終了までには数秒間かかりますが、時間がまったくかからない時はセーブされていません。RAMパックのプロテクトスイッチを再度確かめてください。

★正確に保存できたかどうか、セーブ終了後に自動的にチェックされます。OKであれば、LEDランプが消灯しトゥーパックが完了したことを知らせます。OKでない場合は、LEDランプが点滅しますので、再度トゥーパックボタンを押して点滅を消した後、セーブをやり直してください。

★トゥーパック中は、RAMパックに関する機能以外は使うことができません。

保存したデータを呼び出す

〈フロムパック操作〉

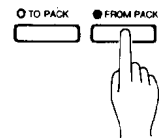
RAMパックに保存したデータをポータトーンに呼び戻す方法です。

①RAMパックをポータトーンに差し込みます。

★RAMパックのメモリープロテクトスイッチがオンであっても、オフであっても呼び出しできます。

②フロムパックのボタンを押します。

フロムパックボタンを押すと、LEDランプが点滅します。再度押すと、LEDランプが点灯し呼び出しが開始されます。



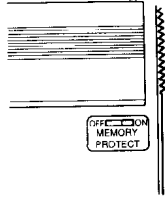
★この操作を行うと、すでにポータトーンに記憶させてあったデータは消えて、RAMパックのデータと置き換わります。

★正確に呼び出しできたかどうか、呼び出し終了後に自動的にチェックされます。OKであれば、LEDランプが消灯しフロムパックが完了したことを知らせます。OKでない場合は、LEDランプが点滅しますので、再度フロムパックボタンを押して点滅を消した後、呼び出しをやり直してください。

★フロムパック中は、RAMパックに関する機能以外は使うことができません。

メモリープロテクト

RAMパックに保存したデータを消したくない場合は、メモリープロテクトのスイッチをONにします。



- ★オンにしておけば、保存したデータを誤って消してしまうことはありません。
- ★RAMパックからは、このスイッチのオン/オフにかかわらず、呼び出すことができます。

RAMパックの保管

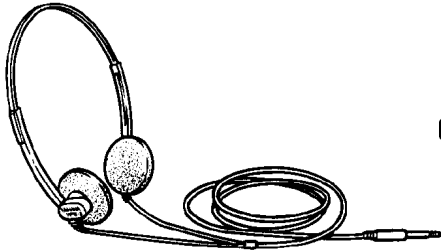
RAMパックの内部には、LSIなどの電子部品が入っていますので、その取扱いや保管の際、次の点にご注意ください。

- ・落としたり、強い力を加えないでください。
- ・差込口の金属部を硬い物でこするなどして、キズを付けないでください。
- ・内部に水やホコリが入らないように、ご注意願います。
- ・保管する場合は、過度の温度や湿気にご注意ください。また、必ず専用のケースに入れて保管してください。
- ・RAMパックに保存したデータは、内蔵の電池によって記憶(バックアップ)されますが、長年使用している間に、この電池は消耗します。電池が消耗してしまうと保存したデータは消えてしまい、新しい記憶操作もできなくなってしまいます。このような場合は、ご購入になった販売店、または電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。(電池の寿命は通常の使い方では約5年です。)

オプション(別売)のご紹介

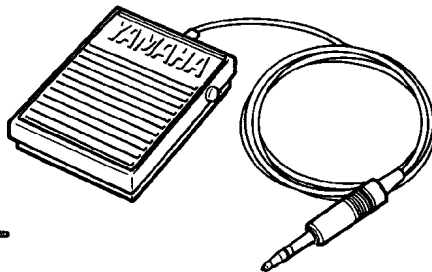
●ヘッドホン

HPE-5 ¥5,500
HPE-3 ¥3,000



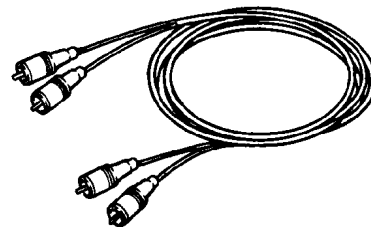
●フットスイッチ

FC-5 ¥1,500



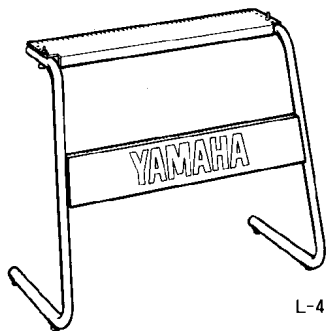
●接続コード

PSC-3 ¥1,000

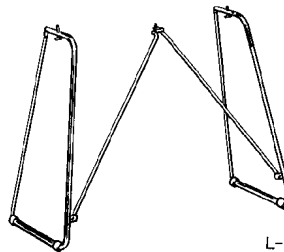


●スタンド

L-4 ¥9,000
L-2 ¥6,000



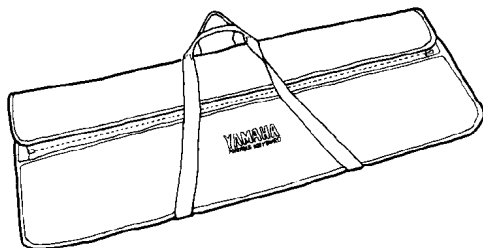
L-4



L-2

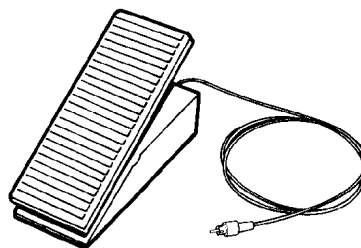
●ソフトケース

SCC-33 ¥6,000



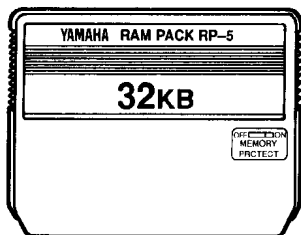
●エクスペッション ペダル

EP-1 ¥2,400



●RAMパック

RP-5 ¥7,500
RP-3 ¥3,500



・表示の価格には消費税は含まれていません。

レッツ・プレイ

ご存じ、久保田利伸のナンバーです。

オートベースコードやカスタムアカンパニメント、ミュージックプログラマーを活用すれば、多彩なプレイが楽しめます。

ステップ1からステップ3まで、機能をフルに使って弾いてみましょう。

最初のパネルのセッティング

オートベースコード	スタイル	テンポ	ソロボイス	オーケストラボイス
シングルフィンガー	No.14(テクノロック1)	J = 100(ノーマル)	No.87(ベルファウンテン)	No.45(パワーブラス)

ステップ1 シングルフィンガーで演奏します。

スタイル番号14のテクノロック1を呼び出し、譜面のコードネームを見て演奏していきます。

ステップ2 カスタムアカンパニメントを作ってみましょう。

31ページのカスタムアカンパニメントで作った譜例のようにプログラムしていきます。

ステップ3 ミュージックプログラマーを使って原曲に近づけてみましょう。

ミュージックプログラマーの操作手順

- ①アカンパニメント(カスタムアカンパニメントを使って)
- ②ベース
- ③オーケストラ(オブリガート)
- ④ソロ(メロディー)

From Style 22 カスタムアカンパニメント

<Dance if you want it>

作詞：久保田利伸・川村真澄

作曲：久保田利伸・Rod Antoon

ソロ

Dance if you want it To- night
 アイツをみは なーした よる

オーケストラ

ベース

まじかどにな がーれるー blue-sy Sax- o- phone — が めんのおとこがさ しだーすー

グイ ヤの クラッ — ほ しあかりー め けだしてー na na na na na na Hey- you- girl

み え な い もーの それがしん し つー み え る も のーは

8 7 Bell Fountain

うそなんてセリフ にあわない

D.S.

coda

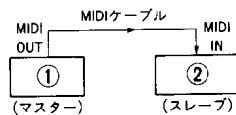
MIDI機能を活用すれば多彩なプレイが楽しめます。

MIDIとは

MIDI(ミディ)とは、Musical Instrument Digital Interface (ミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェイス)の略で、和訳すると「楽器間デジタル通信」。つまり、電子楽器どうし(またはコンピュータ)がコミュニケーションをとり合い、お互いの演奏情報を交換しあうためのものです。そして、このMIDIは世界の電子楽器の統一規格。どのメーカーの機器でもMIDI端子が付いていれば、情報を交換することができるのです。

接続のしかた

その名の通りMIDI OUTは演奏情報の出力、MIDI INは入力に使う端子です。例えば、①という楽器のMIDI OUTと②という楽器のMIDI INをMIDIケーブルで接続すると、①で演奏した内容が②に送られるわけです。この①の楽器を「マスター」(親機)、②の楽器を「スレーブ」(子機)と呼びます。



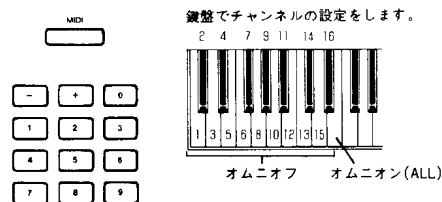
MIDIモード

PSR-4500のMIDIには2つのモードがあります。

1. リモートコントロールモード
鍵盤のキーオン/オフ、音色、サステイン、ボリューム、ピッチベンド、各スイッチをそのまま送受信します。
2. 標準音色モード
キーオン/オフは全て8フィートを基準とし、音色をポータトーン標準音色に合わせた番号で送受信します。

MIDI機能の設定方法

MIDIボタン、ボイスセレクトボタン、および左端の17の鍵盤を使って、MIDIの各種機能の設定を行います。各情報はLEDディスプレイに表示されます。



MIDIの設定内容

MIDIボタンを押しながらボイスセレクトの数字ボタンを押すと、それぞれ次の操作が可能になります。

- 数字ボタン 設定内容
- 0 → リモートコントロールモード/標準音色モードの切替
 - 1 → MIDI送信チャンネルの設定
 - 2 → MIDI受信チャンネルの設定、システムリアルタイムコマンドのオン/オフ切替
 - 3 → スプリットセンドのオン/オフ切替
 - 4 → プログラムチェンジとコントロールチェンジキャンセルのオン/オフ切替
 - 5 → 外部クロック/内部クロックの切替
 - 6 → ローカルコントロールのオン/オフ切替
 - 7 → パネルデータの送信
 - 8 → メモリーデータの送信
 - 9 → リズム受信チャンネルの設定

● 操作①から②に移る時、MIDIボタンは離さないでください。

● (+) ボタンでオン、(-) ボタンでオフします。

MIDIのモード設定と機能			
設定項目	操作① MIDIボタンを押しながら、 ボイスセレクトボタンの [0]を押して指定する。 [0]を押すたびにモード が変わります。	操作② MIDIボタンを押しながら、 該当するオートベースコード用 鍵盤を押して指定する。	表示および設定範囲
0 リモートコントロールモード/ 標準音色モードの切替			リモートコントロールモード 標準音色モード RC []、L []
1 MIDI送信チャンネルの設定			チャンネル1 チャンネル16 5 [] ~ 5 []
2-(1) MIDI受信チャンネルの 設定			オムニオン+チャンネル1 オムニオフ+チャンネル1 オムニオン+チャンネル16 FRL []、F [] ~ F []
2-(2) システムリアルタイムコマ ンドのオン/オフ切替 (標準音色モード時のみ設 定可能)			現在、標準音色モードの場合…… 操作③: 操作②で指定したチャンネルのオン/オフを、MIDIボタンを押しながら ボイスセレクトボタン (+) / (-) で指定する。 オン(受信させる) オフ(受信させない) F [] on、F [] of 操作④: 操作②③を繰り返して、チャンネルごとに指定する。 操作③: MIDIボタンを押しながら、ボイスセレクトボタンの [] / [] で指定する。 FR on、FR of
3 スプリットセンドのオン/オフ 切替(リモートコントロール モード時のみ設定可能)			オン オフ SPL on、SPL of
4 プログラムチェンジとコント ロールチェンジキャンセルの オン/オフ切替			オン オフ Pcc on、Pcc of
5 外部クロック/内部クロックの 切替			外部クロック 内部クロック CL E、CL I
6 ローカルコントロールのオン/ オフ切替(リモートコント ロール時のみ設定可能)			オン オフ LOC on、LOC of
7 パネルデータの送信			送信中 [] []
8 メモリーデータの送信			送信中 [] []
9 リズム受信チャンネルの設定 (標準音色モード時のみ設 定可能)			チャンネル1 チャンネル16 [] [] ~ [] []

0 リモートコントロールモード/標準音色モードの切替

リモートコントロールモードは、本機を送信側に接続してマスターキーボードとして使用することを前提としたモードです。通常はこのモードにしておきます。

標準音色モードは、本機を受信側に接続して音源として使用することを前提としたモードです。このモードにすると、同時に複数のチャンネルの情報を受信できるようになります。例えば、MIDIシーケンサーに記録されている複数のチャンネルの演奏情報を本機に受信させ、同時に複数の音色で鳴らしたい時に、標準音色モードにします。

★パワースイッチをオンにした時は、リモートコントロールモードになっています。

★標準音色モードにした場合は、本機の鍵盤を弾いても本機で音は鳴りません。

1 MIDI送信チャンネルの設定

本機をマスター(送信側)として使う場合は、MIDI送信チャンネルの指定が必要です。スレーブ(受信側)の機器のMIDI受信チャンネルと一致させます。

★パワースイッチをオンにした時は、送信チャンネルはチャンネル1になっています。

2-(1) MIDI受信チャンネルの設定

本機をスレーブ(受信側)として使う場合は、MIDI受信チャンネルの指定が必要です。マスター(送信側)の機器のMIDI送信チャンネルと一致させます。

★パワースイッチをオンにした時は、受信チャンネルはオムニオフ+チャンネル1になっています。

★オムニオンはチャンネル設定に関係なく、どのチャンネルのメッセージでも受信できる状態で、オムニオフは指定したチャンネルの情報だけを受信できる状態です。

3 システムリアルタイムコマンドのオン/オフ切替(標準音色モード時のみ設定可能)

本機を標準音色モードにしてスレーブ(受信側)で使う場合に、システムリアルタイムコマンドを受信できる状態(オン)にするか、受信できない状態(オフ)にするかを、選択できます。

システムリアルタイムコマンドには、\$FA(スタート)と\$FC(ストップ)のメッセージがあります。

★リモートコントロールモードにした場合には、この機能は存在しません。(オンの状態のままです。)

★パワースイッチをオンにした時は、受信できない(オフ)状態になっています。

★システムリアルタイムコマンドは、MIDIチャンネルに関係なく送受信されます。

3 スプリットセンドのオン/オフ切替

(リモートコントロールモード時のみ設定可能)

シングルフィンガー、フィンガード、スプリット状態の時に、スプリットセンドオンの状態にすると、低音側と高音側の演奏情報が異なったチャンネル番号で送信されるようになります。

つまり低音側と高音側の音を、外部機器側で異なった音色で鳴らしたい場合には、スプリットオンの状態にします。

★標準音色モードにした場合には、この機能は存在しません。

★低音側の演奏情報はMIDIチャンネル2で送信されますので、外部機器のMIDI受信チャンネルを2に合わせてください。

また、高音側の演奏情報は"1 MIDI送信チャンネルの設定"のところ指定したMIDIチャンネルで送信されます。

★低音側と高音側の演奏情報をMIDIシーケンサーに別々のチャンネルで記録することもできます。

★本機を受信側にした場合は、この機能は関係ありません。

★パワースイッチをオンにした時は、スプリットセンドオフになっています。

4 プログラムチェンジとコントロールチェンジキャンセルのオン/オフ切替

オンにすると、本機で音色を切り替えたり、演奏音の音量を調節したり、サステインをオン/オフしても、MIDI OUT端子へそれらの情報を出力しなくなります。また、MIDI IN端子からそれらの情報を受けても本機の状態は変化しなくなります。

すなわち、本機だけで単独に操作したい場合には、オンにしてください。

★パワースイッチをオンにした時は、キャンセルオフになっています。

5 外部クロック/内部クロックの切替

本機のリズムを制御するクロックを選択できます。内部クロックにすると、外部機器に左右されず、本機自身のテンポにしたがってリズムが鳴り、外部クロックにすると、外部機器から送られてくるテンポにしたがってリズムが鳴ります。

★パワースイッチをオンにした時は、内部クロックになっています。

6 ローカルコントロールのオン/オフ切替

(リモートコントロールモード時のみ設定可能)

オフにすると、本機で演奏したにもかかわらず本機自身では鳴らなくなります。ただし、MIDI OUT端子からは、ローカルオン/オフにかかわらず演奏情報が出力されます。

すなわち、ローカルコントロールオフは、外部の楽器だけで鳴らしたい場合に、本機で音が出ないようにするためのものです。

★本機を受信側にした場合は、この設定は関係ありません。

★標準音色モードにした場合には、この機能は存在しません。(オフの状態と同じになります。)

★パワースイッチをオンにした時は、ローカルコントロールオンになっています。

7 パネルデータの送信

現在のパネルのセッティング状態(レジストレーション)を送信する機能です。

★送信は瞬時に完了します。

8 メモリーデータの送信

以下のメモリー内容を送信する機能です。

- ・レジストレーションメモリーへ記憶させたパネル設定データ(4セット)
- ・デジタルシンセサイザーへ記憶させたオリジナルの音色データ(100音色)
- ・カスタムアカンパニメントへ記憶させたオリジナルの伴奏パターン(5セット)
- ・ドラムパッドへ割り付けた音色(5セット)
- ・ミュージックプログラマーに記憶させた演奏データ(4セット)

★送信中は3桁ディスプレイが"---"表示となり、送信が終了すると元の表示に戻ります。

★送信中はパネル操作できません。

9 リズム受信チャンネルの設定

(標準音色モード時のみ設定可能)

リズム音(打楽器音)の発音情報に対する受信チャンネルを設定できます。送信側のチャンネルと一致させてください。(前述の"2-(1) MIDI受信チャンネルの設定"はリズム以外のパートに対するものです。)

★リモートコントロールモードにした場合には、この機能は存在しません。

★ここで指定したチャンネルと、リズムパート以外のチャンネルが重複した場合は、リズムの受信チャンネルが優先されます。

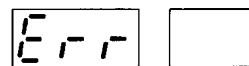
★パワースイッチをオンにした時は、チャンネル16になっています。

MIDIエラー表示

MIDI受信の際、送受信間のトラブルのために正確に情報がやりとりされなかったり、送受信バッファの容量を超えるデータが生じた場合は、LEDディスプレイにMIDIエラーを意味する文字が表示されます。

この表示になった場合は、パワースイッチを一度オフにしてから再びオンにし、再実行してください。

ただし、送受信バッファの容量オーバーによるエラーの場合は、あらかじめデータをいくつか分割するなどしてください。



ファンクション…	送 信	受 信	備 考
ベーシック 電源ON時 チャンネル 設定可能	1チャンネル 1~16チャンネル	1チャンネル 1~16チャンネル	
モード 電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード3 オムニ・オン、オムニ・オフ ×	リモートコントロールモード
ノート ナンバー 音域	36~96 *****	36~96 ※1 36~96 ※2	
ベロシティ ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH、v=1~127 × 9nH、v=0	○ v=1~127 ×	
アフター キー別 タッチ チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー	○	○ 0~2 semi	7ビット分解能
コントロール チェンジ	01 ○	○	モジュレーション
	07 ○	○	ポリューム
	64 ○	○	サスティン
プログラム チェンジ 設定可能範囲	○ 0~99 *****	○ 0~99 ※3 0~99	
エクスクルーシブ	○	○	
コモン ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル クロック タイム コマンド	○ ○	○ ○	
その他 ローカルON/OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× × ○ ×	○ ○ (122~125) ○ ×	
備 考	※1 標準音色モードの場合は1~127 ※2 標準音色モードの場合は24~102 ※3 標準音色モードの場合は0~126		

モード1 : オムニ・オン、ポリ モード2 : オムニ・オン、モノ ○ : あり
 モード3 : オムニ・オフ、ポリ モード4 : オムニ・オフ、モノ × : なし

故障と誤りやすい現象

現 象	原 因	解 決 法
パワースイッチをオンまたはオフにした時に、“ポツン”と音がする。	電気が流れたため。	ご心配いりません。
ソロボイスをオンにしても、低音鍵盤部でソロ音色が発音されない。	トゥーローワーがオンになっているため。	トゥーローワーを解除してください。
デュエットの音が出ない。	オートベースコードを使用していない。	13ページ参照。
オーケストラ音が出ない。	オーケストラボリュームが最小になっている。	オーケストラボリュームを上げてください。
	オーケストレーションのオーケストラボタンが押されていない。	オーケストラボタンを押してください。
リズム音が出ない。	スタートボタンを押していない。	22、23ページの説明を読んで操作もれがないかを確認してください。
	シンクロスタートボタンを押して、オートベースコード用鍵盤を押していない。	
	リズムボリュームが最小になっている。	
オートベースコードの音が出ない。または、リズムにのらない。	オートベースコードがオフになっている。	24、25ページの説明を読んで操作もれがないかを確認してください。
	マニュアルベースにセットしている。	
	ベースとコードのボリュームが最小になっている。	
	オートベースコード用鍵盤を押さえていない。	
オートベースコードで伴奏している時、コードを変えてもコードが変わらない。	オートベースコード用鍵盤部で、指を離さないうちに次のコードにしようとしている。	コードを変える時は、鍵盤から完全に指を離れたうえで次のコードを押さえてください。
レジストレーションメモリーに記憶させたセッティングと違う。	メモリーできない機能もあります。	19ページ参照。
ピッチベンドローラーを回転させてもピッチが変わらない。	ピッチベンドローラーは次のものには作用しません。 ・オートベースコード ・ミュージックプログラマー ・サウンドエフェクト	21ページ参照。
カスタムアカンパニメントでプログラムしても、弾いた通りに記憶されない。	鍵盤を細かく弾きすぎたため。	フィンガードコードで入力する場合は32分音符まで、それ以外の入力には16分音符までです。
	クリアボタンを押さずに、プリセットパターンに重ねたため。	クリアボタンを押して、自分で弾いたパターンのみを記憶させます。
	2小節以上入力して、前のパターンに重ねてしまったため。	パターン(2小節)を確認して入力し直してください。
ミュージックプログラマーに記憶されない機能がある。	記憶できない機能があります。	39ページ参照。
ミュージックプログラマーでプログラムするとき、失敗したパートを途中だけ再録したら、再生の際に途中で終了してしまった。	部分的な変更をしたため。	部分的な変更はできないので、失敗したところから最後まで演奏を続けてください。

仕様

- 鍵盤数
一段鍵盤61鍵(C1~C6)
- ボイス(100音色)
- 00 ピアノ1
- 01 ピアノ2
- 02 ホンキートンクピアノ
- 03 エレクトリックピアノ1
- 04 エレクトリックピアノ2
- 05 ハープシコード
- 06 クラビ
- 07 チェレスタ
- 08 トーイピアノ
- 09 バイブス
- 10 グロッケン
- 11 チャイム
- 12 シロフォン
- 13 マリンバ
- 14 バンブーマリンバ
- 15 ティンパニ
- 16 スチールドラム
- 17 カリンバ
- 18 ガメラン
- 19 ミュージックボックス
- 20 スtrings1
- 21 スtrings2
- 22 ピチカートString
- 23 シンセストリングス1
- 24 シンセストリングス2
- 25 バイオリン
- 26 チェロ
- 27 ハープ
- 28 フルート
- 29 バンフルート
- 30 リコーダー
- 31 クラリネット
- 32 オーボエ
- 33 バスーン
- 34 サキソフォーン1
- 35 サキソフォーン2
- 36 ハーモニカ
- 37 アコーディオン
- 38 バグパイプ
- 39 トランペット
- 40 ミュートトランペット
- 41 トロンボーン
- 42 ホルン
- 43 チューバ
- 44 プラスアンサンブル
- 45 パワーブラス
- 46 シンセブラス1
- 47 シンセブラス2
- 48 パイプオルガン
- 49 ジャズオルガン
- 50 ロックオルガン
- 51 ストリートオルガン
- 52 ヒューマンボックス
- 53 ハスキー
- 54 ホイッスル
- 55 クラシックギター
- 56 フォークギター
- 57 ジャズギター
- 58 ロックギター
- 59 ディストーションギター
- 60 ミュートギター
- 61 バンジョー
- 62 マンドリン
- 63 シタール
- 64 琴
- 65 三味線
- 66 アコースティックベース
- 67 ポーベース
- 68 エレクトリックベース1
- 69 エレクトリックベース2
- 70 スラップベース
- 71 フレットレスベース
- 72 シンセベース1
- 73 シンセベース2
- 74 シンセベース3
- 75 ホーローシンセ
- 76 ソフトクラウド
- 77 夜明け
- 78 日光
- 79 アラベスク
- 80 アクア
- 81 ランドスケープ
- 82 メタリック
- 83 水晶
- 84 氷塊
- 85 グラスベル
- 86 シンセベル
- 87 ベルファウンテン
- 88 黒
- 89 シンセリンバ
- 90 アフリカンパーカッパ
- 91 アフターバーナー
- 92 ファニー
- 93 怪物
- 94 ハハハ!
- 95 緊急
- 96 レーシングサーキット
- 97 嵐
- 98 波
- 99 オーケストラヒット
- アカンパニメントスタイル
(100スタイル)
- 00 ディスコ1
- 01 ディスコ2
- 02 ポップロック1
- 03 ポップロック2
- 04 8ビート1
- 05 8ビート2
- 06 16ビート1
- 07 16ビート2
- 08 ロックンロール1
- 09 ロックンロール2
- 10 ブラスロック
- 11 クリスマスロック
- 12 オリエンタルロック
- 13 ロックバロック
- 14 テクノロック1
- 15 テクノロック2
- 16 ハードロック
- 17 ヘビーメタル
- 18 スピードメタル
- 19 コンテンポラリーソウル
- 20 フェュージョン1
- 21 フェュージョン2
- 22 ファンク1
- 23 ファンク2
- 24 ファンク3
- 25 ラップ
- 26 ロックシャッフル
- 27 ユーロビート1
- 28 ユーロビート2
- 29 ゴスペル
- 30 リズム&ブルース1
- 31 リズム&ブルース2
- 32 スローブルース
- 33 スネア(ゲートエコー)、コンガ(低)、タム(低)、タム(中)、カバサ、タム(高)、スルドー、リムショット、スネア(ゲートエコー)、コンガ(低)、スネア(ヘヴィー)、コンガ(高)、スネア(ライト)、コンガ(ミュート)、ハイハットペダル、ハイハットクローズ、クイーカー(低)、ハイハットオープン、クイーカー(高)、ライドシンバル、ライドカップ、クラベス、クラッシュシンバル(低)、カウベル(低)、クラッシュシンバル(高)、カウベル(高)、リバースシンバル、シンセタム(低)、アゴゴ(低)、シンセタム(中)、アゴゴ(高)、シンセタム(高)、トライアングルクローズ、サンバホイッスル(低)、トライアングルオープン、サンバホイッスル(高)、タンバリン(モンキー)、手拍子
- アクセント(>)用鍵盤、キャンセル用鍵盤
- パッド
プログラム、シンクロブレイク、サウンドエフェクト、ホールド、カスタム1、2、3、ドラムパッド1~8
- オーケストレーション
ソロ、オーケストラ、トゥーローウ、デュアルボイス、ソロボリューム、オーケストラボリューム
- エフェクト
サステイン1、2、アンサンブル、デュエット、キーベロシティ、サウンドエフェクトボリューム
- デジタルリバーブ
ルーム、ホール、エコー
- ソロスタイルプレイ
- 67 チャチャチャ
- 68 マリアッチ
- 69 ボレロ
- 70 フラメンコ
- 71 アルゼンチンfolkローレ
- 72 アイランドfolkローレ
- 73 サンアフロ
- 74 ビギン
- 75 ルンバ
- 76 マンボ1
- 77 マンボ2
- 78 サンバ1
- 79 サンバ2
- 80 ボサノバ1
- 81 ボサノバ2
- 82 ハワイアン
- 83 シャンソン
- 84 音頭
- 85 演歌
- 86 マーチ1
- 87 マーチ2
- 88 ポルカ
- 89 ファンファーレ
- 90 ウィーンワルツ
- 91 ビッグバンド(ワルツ)
- 92 バロック(ワルツ)
- 93 ジャズワルツ
- 94 ララバイ
- 95 クラシカルギター
- 96 ストリートオルガン
- 97 マンドリンバンド
- 98 ストリングカルテット
- 99 バーバーショップカルテット
- ボイスセレクト
パートセレクト、+、-、0~9キー
- アカンパニメントスタイルセレクト
テンポ(▲、▼)、バリエーション、+、-、0~9キー
- ドラムパッド
(効果音)
鳥1、鳥2、鳥3、クラクション、ガラスの割れる音、大砲、レコードスクラッチ1、レコードスクラッチ2、笑い声(男)、笑い声(漫画調)、“イエイ”(女)、“イエイ”(男)、“ハッ”(男)、“オオ”(歌舞伎)、“ボン”(小鼓)、拍手
- (打楽器)
バッドラム(低)、ティンパレス(低)、バッドラム(高)、ティンパレス(高)、タム(低)、タム(中)、カバサ、タム(高)、スルドー、リムショット、スネア(ゲートエコー)、コンガ(低)、スネア(ヘヴィー)、コンガ(高)、スネア(ライト)、コンガ(ミュート)、ハイハットペダル、ハイハットクローズ、クイーカー(低)、ハイハットオープン、クイーカー(高)、ライドシンバル、ライドカップ、クラベス、クラッシュシンバル(低)、カウベル(低)、クラッシュシンバル(高)、カウベル(高)、リバースシンバル、シンセタム(低)、アゴゴ(低)、シンセタム(中)、アゴゴ(高)、シンセタム(高)、トライアングルクローズ、サンバホイッスル(低)、トライアングルオープン、サンバホイッスル(高)、タンバリン(モンキー)、手拍子
- アクセント(>)用鍵盤、キャンセル用鍵盤
- パッド
プログラム、シンクロブレイク、サウンドエフェクト、ホールド、カスタム1、2、3、ドラムパッド1~8
- オーケストレーション
ソロ、オーケストラ、トゥーローウ、デュアルボイス、ソロボリューム、オーケストラボリューム
- エフェクト
サステイン1、2、アンサンブル、デュエット、キーベロシティ、サウンドエフェクトボリューム
- デジタルリバーブ
ルーム、ホール、エコー
- ソロスタイルプレイ
- リズムコントロール
スタート、ストップ、シンクロスタート、イントロ/エンディング、イントロ/フィルイン1、2、3、リズムボリューム
- デジタルシンセサイザー
エディット、パラメーター、バリュー
- オートベースコード
マニュアルベース、フィンガード、シングルフィンガー、オフ、ベースボリューム、コードボリューム
- カスタムアカンパニメント
プログラム、リズム、ベース、コード、クリア、カスタム1、2、3、4、5
- ミュージックプログラマー
レコード(ソロ、オーケストラ、アカンパニメント/オーケストラ、ベース/オーケストラ)、プレイ(ソロ、オーケストラ、アカンパニメント/オーケストラ、ベース/オーケストラ)、ポーズ、オフ、ソングセレクト、ソングデリート
- レジストレーションメモリー
メモリー、1、2、3、4
- ロールバー
モジュレーション、オーケストラブリリアンス、ソロエクスプレッション、オーケストラエクスプレッション、アカンパニメントエクスプレッション、マスターエクスプレッション
- ピッチベンドローラー
- RAMバック
トゥーバック、フロムバック
- キースプリット
- ピッチ(▲、▼)
- トランスポーズ(▲、▼)
- その他のコントロール
パワースイッチ、マスターボリューム、3桁+2桁LEDディスプレイ、MIDI、デモンストレーション
- 外部端子
HEADPHONES、AUX、OUT(R、L/L+R)、EXP、PEDAL、DC IN(9-12V)、サステイン、MIDI(IN、OUT)、OPTIONAL IN(L、R)
- アンプ
8W×2
- スピーカー
12cm×2
- 定格電源
DC 9V:電源アダプター・PA-5、単1乾電池6本
- 消費電力
ACアダプター使用時:25W
乾電池使用時:10W
(乾電池寿命:通常演奏で約3.5時間)
- 外装仕上げ
スチロール樹脂・アクリルラッカー塗装
- 寸法(譜面立て取り外し時)
(間口)1221mm×(奥行)392.4mm×(高さ)145.6mm
- 重量
8.8kg(乾電池重量含まず)
- 付属品
電源アダプター・PA-5、譜面立て

MIDIデータフォーマット

● SYSTEM EXCLUSIVE MESSAGE

1) Bulk Dump Request

```

11110000 F0H STATUS
01000011 43H YAMAHA ID
0010nnnn 2nH SUBSTATUS/CH      n=local device no.
00001010 0AH FORMAT NO.
11110111 F7H EOX
    
```

2) Bulk Dump Data

```

11110000 F0H STATUS
01000011 43H YAMAHA ID
0000nnnn 0nH SUBSTATUS/CH      n=local device no.
00001010 0AH FORMAT NO.
0nnnnnnn nn BYTE COUNT MSB
0nnnnnnn nn BYTE COUNT LSB
01010000 50H Header            P
01001011 4BH                    K
00100000 20H                    space
00100000 20H                    space
00110010 32H                    2
00110001 31H                    1
00110010 32H                    2
00110010 32H                    2
00100000 20H                    space
0nnnnnnn nn DATA NO.
0ddddddd dd
: DATA
0ddddddd dd
0sssssss ss CHECKSUM
11110111 F7H EOX
    
```

DATA NO.

```

00H REGISTRATION MEMORY
01H SYNTHESIZER DATA
02H CUSTOM RHYTHM
03H CUSTOM BASS
04H CUSTOM CHORD 1 (STROKE)
05H CUSTOM CHORD 2 (ARPEGGIO)
06H MUSIC PROGRAMMER INDEX
07H TRACK 1
:
0nH TRACK n-6
    
```

3) Panel Data Request

```

11110000 F0H STATUS
01000011 43H YAMAHA ID
0010nnnn 2nH SUBSTATUS/CH      n=local device no.
01111100 7CH FORMAT NO.
11110111 F7H EOX
    
```

4) Panel Data Transmission

```

11110000 F0H STATUS
01000011 43H YAMAHA ID
0000nnnn 0nH SUBSTATUS/CH      n=local device no.
01111100 7CH FORMAT NO.
0nnnnnnn nn BYTE COUNT MSB
0nnnnnnn nn BYTE COUNT LSB
01010000 50H Header            P
01001011 4BH                    K
00100000 20H                    space
00100000 20H                    space
00110010 32H                    2
00110001 31H                    1
00110010 32H                    2
00110010 32H                    2
00100000 20H                    space
00100000 20H                    space
    
```

```

0vvvvvvv vv Software version number.
0rrrrrrr rr Software revision number.
0ddddddd dd
: DATA
0ddddddd dd
0sssssss ss CHECKSUM
11110111 F7H EOX
    
```

5) Name Date Request

```

11110000 F0H STATUS
01000011 43H YAMAHA ID
0010nnnn 2nH SUBSTATUS/CH      n=local device no.
01111101 7DH FORMAT NO.
11110111 F7H EOX
    
```

6) Name Data Transmission

```

11110000 F0H STATUS
01000011 43H YAMAHA ID
0000nnnn 0nH SUBSTATUS/CH      n=local device no.
01111101 7DH FORMAT NO.
0nnnnnnn nn BYTE COUNT MSB
0nnnnnnn nn BYTE COUNT LSB
01010000 50H Header            P
01001011 4BH                    K
00100000 20H                    space
00100000 20H                    space
00110010 32H                    2
00110001 31H                    1
00110010 32H                    2
00110010 32H                    2
00100000 20H                    space
00100000 20H                    space
0vvvvvvv vv Software version number.
0rrrrrrr rr Software revision number.
0ccccc cc CONDITION DATA
0ccccc cc //
0ccccc cc //
0ccccc cc //
0sssssss ss CHECKSUM
11110111 F7H EOX
    
```

7) Standard Voice Mode/Remote Control Mode Switch

- a) Remote Control Mode
F0H, 43H, 76H, 05H, 00H, F7H
- b) Standard Voice Mode
F0H, 43H, 76H, 05H, 01H, F7H

8) Clock Mode Switch

- a) Internal Mode
F0H, 43H, 73H, 01H, 02H, F7H
- b) External Mode
F0H, 43H, 73H, 01H, 03H, F7H

9) Program/Control Change Cancel ON

F0H, 43H, 73H, 01H, 10H, F7H

● MIDI EXTENDED CONTROL CHANGE

1) Format

F0H, 43H, 76H, 04H, gnH, ccH, ddH, F7H
(n = local device no.)

2) DATA

g	cc	dd	PARAMETER	FUNCTION
0	00h	0~99	STYLE NO.	STYLE
	01h	00h	OFF	ABC
		01h	S/F	
		02h	F/C	
		03h	M/B	
	02h	0	VARI OFF	ABC VARIATION
		1	VARI ON	
	03h	00h	OFF	FILL IN
		01h	FILL1 ON	
		02h	FILL2 ON	
		04h	FILL3 ON	
	04h	0	INTRO./ENDING ON EVENT	INTRO./ENDING
	05h	0	S.S ON EVENT	SYNCR. START
	06h	0~127	TEMPO VALUE	TEMPO SPEED
	07h	36~64	SPLIT POINT	SPLIT
	08h	7Ah	-6	TRANPOSE
		∫	∫	
		7Fh	-1	
		0	0	
		1	+1	
		∫	∫	
	09h	0~99	SOLO VOICE NO.	SOLO VOICE
	0Ah	0~99	BASS VOICE NO.	BASS VOICE
	0Bh	0	ORC OFF	ORCHESTRATION
		1	ORC ON	
		2	SOLO OFF	
		3	SOLO ON	
		4	TO LOWER OFF	
		5	TO LOWER ON	
		6	DUAL VOICE OFF	
7		DUAL VOICE ON		
0Ch	0	SOLO STYLEP OFF	SOLO STYLE PLAY	
	1	SOLO STYLEP ON		
0Dh	0	ENSEMBLE OFF	EFFECT	
	1	ENSEMBLE ON		
	2	DUET OFF		
	3	DUET ON		
	4	KEY VEL. OFF		
5	KEY VEL. ON			
0Eh	0	REV OFF	DIGITAL REVERB	
	1	ROOM		
	2	HALL		
	3	ECHO		
0Fh	0	EDIT OFF	DIGITAL SYNTH	
	1	EDIT ON		
10h	0	MODULATION	ROLL BAR	
	1	ORC. BRILLIANCE		
	2	SOLO EXPRESSION		
	3	ORC. EXPRESSION		
	4	ACC. EXPRESSION		
	5	MAST EXPRESSION		

g	cc	dd	PARAMETER	FUNCTION
0	11h	0	REGISTRATION 1	REGISTRATION MEMORY
		1	REGISTRATION 2	
		2	REGISTRATION 3	
		3	REGISTRATION 4	
	12h	0	SOUND EFFECT	DRUM PAD FUNCTION
		1	CUSTOM 1	
		2	CUSTOM 2	
		3	CUSTOM 3	
		4	HOLD OFF	
		5	HOLD ON	
		6	SYNCR BREAK OFF	
	7	SYNCR BREAK ON		
	13h	0	PAD1 OFF	PAD ON/OFF
		1	PAD1 ON	
		2	PAD2 OFF	
3		PAD2 ON		
4		PAD3 OFF		
5		PAD3 ON		
6		PAD4 OFF		
7		PAD4 ON		
8		PAD5 OFF		
9		PAD5 ON		
10		PAD6 OFF		
11		PAD6 ON		
12		PAD7 OFF		
13		PAD7 ON		
14		PAD8 OFF		
15	PAD8 ON			
14h	0	CUSTOM 1	CUSTOM ACCOMPANIMENT	
	1	CUSTOM 2		
	2	CUSTOM 3		
	3	CUSTOM 4		
	4	CUSTOM 5		
15h	0	SOLO REC	MUSIC PROGRAMER	
	1	SOLO PLAY		
	2	ORC REC		
	3	ORC PLAY		
	4	ACCOMP REC		
	5	ACCOMP PLAY		
	6	BASS REC		
	7	BASS PLAY		
	8	PAUSE		
	9	SONG SELECT		
	10	SONG DELETE		
11	OFF			
16h	0~127	SOLO VOLUME	SOLO VOLUME	
17h	0~127	CHORD VOLUME	CHORD VOLUME	
18h	0~127	BASS VOLUME	BASS VOLUME	
19h	0~127	RHYTHM VOLUME	RHYTHM VOLUME	
1Ah	0~127	SOUND EFFECT VOL.	SOUND EFFECT VOL.	
1Bh	0~127	ROLL BAR VALUE	ROLL BAR VALUE	

● STANDARD VOICE MODE OUTPUT VOICE NUMBER CHART

PSR-4500		MIDI OUT	
NO.	VOICE	NO.	VOICE
00	PIANO 1	03	PIANO 1
01	PIANO 2	52	PIANO 2
02	HONKY-TONK PIANO	25	HONKY-TONK PIANO
03	E. PIANO 1	05	ELECTRIC PIANO 1
04	E. PIANO 2	54	ELECTRIC PIANO 2
05	HARPSICHORD	04	HARPSICHORD 1
06	CLAVI	30	FUNKY CLAVI
07	CELESTA	06	CELESTA
08	TOY PIANO	26	TOY PIANO
09	VIBES	07	VIBRAPHONE
10	GLOCKEN	32	GLOCKENSPIEL
11	CHIMES	64	CARILLON
12	XYLOPHONE	59	XYLOPHONE
13	MARIMBA	08	MARIMBA
14	BAMBOO MARIMBA	65	PIZZICATO VIOLIN
5	TIMPANI	66	TIMPANI
16	STEEL DRUM	09	STEEL DRUM
17	KALIMBA	61	KALIMBA
18	GAMELAN	62	TUBULA BELLS
19	MUSIC BOX	24	MUSIC BOX
20	STRINGS 1	41	STRINGS 1
21	STRINGS 2	50	STRINGS 2
22	PIZZ. STRINGS	78	PIZZICATO STRINGS
23	SYNTH STRINGS 1	51	SYNTH STRINGS
24	SYNTH STRINGS 2	67	VIOLIN 2
25	VIOLIN	10	VIOLIN 1
26	CELLO	11	CELLO
27	HARP	37	HARP
28	FLUTE	20	FLUTE
29	PAN FLUTE	47	PAN FLUTE
30	RECORDER	88	RECORDER
31	CLARINET	19	CLARINET
32	OBOE	21	OBOE
33	BASSON	97	KAZOO
34	SAXOPHONE 1	18	SAX
35	SAXOPHONE 2	42	ALPENHORN
36	HARMONICA	22	HARMONICA
37	ACCORDION	31	ACCORDION
8	BAGPIPE	43	BAGPIPE
39	TRUMPET	15	TRUMPET
40	MUTE TRUMPET	44	MUTE TRUMPET
41	TROMBONE	16	TROMBONE
42	HORN	17	HORN
43	TUBA	84	TUBA
44	BRASS ENSEMBLE	92	BRASS ENSEMBLE 1
45	POWER BRASS	83	WOW TRUMPET
46	SYNTH BRASS 1	00	SYNTH BRASS 1
47	SYNTH BRASS 2	82	SYNTH BRASS 2
48	PIPE ORGAN	29	PIPE ORGAN 2
49	JAZZ ORGAN	01	JAZZ ORGAN

PSR-4500		MIDI OUT	
NO.	VOICE	NO.	VOICE
50	ROCK ORGAN	27	ROCK ORGAN
51	STREET ORGAN	57	STREET ORGAN
52	HUMAN VOX	96	HUMAN CHORUS
53	HUSKY	95	HUMAN VOICE 2
54	WHISTLE	23	WHISTLE
55	CLASSIC GUITAR	73	CLASSIC GUITAR
56	FOLK GUITAR	36	FOLK GUITAR
57	JAZZ GUITAR	12	JAZZ GUITAR
58	ROCK GUITAR	68	ROCK GUITAR 2
59	DISTORTION GUITAR	13	ROCK GUITAR 1
60	MUTE GUITAR	70	ROCK GUITAR 4
61	BANJO	34	BANJO
62	MANDOLIN	74	MANDOLIN
63	SITAR	75	SITAR
64	KOTO	76	KOTO
65	SHAMISEN	77	SHAMISEN
66	ACOUSTIC BASS	14	WOOD BASS 1
67	BOWED BASS	35	BOWED BASS
68	ELEC. BASS 1	38	ELECTRIC BASS 1
69	ELEC. BASS 2	79	ELECTRIC BASS 2
70	SLAP BASS	39	SLAP BASS
71	FRETLESS BASS	80	ELECTRIC BASS 3
72	SYNTH BASS 1	81	WOOD BASS 2
73	SYNTH BASS 2	58	SYNTH BASS 1
74	SYNTH BASS 3	86	SYNTH BASS 2
75	HOLLOW SYNTH	98	MUSIC SAW
76	SOFT CLOUD	46	JUG
77	DAYBREAK	53	HARPSICHORD 2
78	SUNBEAM	56	BANDNEON
79	ARABESQUE	69	ROCK GUITAR
80	AQUA	28	TREMOLO ORGAN
81	LANDSCAPE	99	SINE WAVE
82	METALLIC	45	SYNTH REED
83	CRYSTAL	33	HAWAIIAN GUITAR
84	ICE BLOCK	48	ICE BLOCK
85	GLASS BELL 2	63	HAND BELL
86	SYNTH BELLS	40	UKULELE
87	BELL FOUNTAIN	72	12 STRING GUITAR
88	PLUCK	60	SYNTH (PERCUS)
89	SYNTHRIMBA	71	PEDAL STEEL GUITAR
90	AFRICAN PERCUSS.	55	GLASS CELESTA
91	AFTER BURNER	85	SYNTH REED 2
92	FUNNY	91	SAMBA WHISTLE
93	MONSTER	87	FLUGEL HORN
94	HA HA HA./	94	HUMAN VOICE 1
95	EMERGENCY	49	REED ORGAN
96	RACING CIRCUIT	93	WOODWIND ENSEMBLE
97	STORM	89	OCALINA
98	WAVE	02	PIPE ORGAN 1
99	ORCHESTRA HIT	90	ORCHESTRA HIT

※本ページの表の左側はパネル上の音色、右側は標準音色です。

※ □ でかまれた音色は、パネル上の音色と標準音色が異なります。

● STANDARD VOICE MODE INPUT VOICE NUMBER CHART

MIDI IN		PSR-4500	
NO.	VOICE	NO.	VOICE
00	SYNTH BRASS 1	46	SYNTH BRASS 1
01	JAZZ ORGAN	49	JAZZ ORGAN
02	PIPE ORGAN 1	28	FLUTE
03	PIANO 1	00	PIANO 1
04	HARPSICHORD 1	05	HARPSICHORD
05	ELECTRIC PIANO 1	03	E. PIANO 1
06	CELESTA	07	CELESTA
07	VIBRAPHONE	09	VIBES
08	MARIMBA	13	MARIMBA
09	STEEL DRUM	16	STEEL DRUM
10	VIOLIN 1	25	VIOLIN
11	CELLO	26	CELLO
12	JAZZ GUITAR	57	JAZZ GUITAR
13	R. GUITAR 1 (DIST)	59	DISTORTION GUITAR
14	WOOD BASS 1	66	ACOUSTIC BASS
15	TRUMPET	39	TRUMPET
16	TROMBONE	41	TROMBONE
17	HORN	42	HORN
18	SAX	34	SAXOPHONE 1
19	CLARINET	31	CLARINT
20	FLUTE	28	FLUTE
21	OBOE	32	OBOE
22	HARMONICA	36	HARMONICA
23	WHISTLE	54	WHISTLE
24	MUSIC BOX	19	MUSIC BOX
25	HONKY-TONK PIANO	02	HONKY-TONK PIANO
26	TOY PIANO	08	TOY PIANO
27	ROCK ORGAN	50	ROCK ORGAN
28	TREMOLO ORGAN	57	JAZZ ORGAN
29	PIPE ORGAN 2	48	PIPE ORGAN
30	FUNKY CLAVI	06	CLAVI
31	ACCORDION	37	ACCORDION
32	GLOCKENSPIEL	10	GLOCKEN
33	HAWAIIAN GUITAR	56	FOLK GUITAR
34	BANJO	61	BANJO
35	BOWED BASS	67	BOWED BASS
36	FOLK GUITAR	56	FOLK GUITAR
37	HARP	27	HARP
38	ELECTRIC BASS 1	68	ELEC. BASS 1
39	SLAP BASS	70	SLAP BASS
40	UKULELE	62	MANDOLIN
41	STRINGS 1	20	STRINGS 1
42	ALPENHORN	42	HORN
43	BAGPIPE	38	BAG PIPES
44	MUTE TRUMPET	40	MUTE TRUMPET
45	SYNTH REED 1	75	HOLLOW SYNTH
46	JUG	76	SOFT CLOUD
47	PAN FLUTE	29	PAN FLUTE
48	ICE BLOCK	84	ICE BLOCK
49	REED ORGAN	51	STREET ORGAN
50	STRINGS 2	21	STRINGS 2
51	SYNTH STRINGS	23	SYNTH STRINGS 1
52	PIANO 2	01	PIANO 2
53	HARPSICHORD 2	05	HARPSICHORD
54	ELECTRIC PIANO 2	04	E. PIANO 2
55	GLASS CELESTA	90	AFRICAN PERCUS.
56	BANDONEON	37	ACCORDION
57	STREET ORGAN	51	STREET ORGAN
58	SYNTH BASS 1	73	SYNTH BASS 2
59	XYLOPHONE	12	XYLOPHONE
60	SYNTH (PERCUSS)	88	PLUCK
61	KALIMBA	17	KALIMBA
62	TUBULA BELLS	11	CHIMES
63	HAND BELL	19	MUSIC BOX

MIDI IN		PSR-4500	
NO.	VOICE	NO.	VOICE
64	CARILLON	11	CHIMES
65	PIZZICATO VIOLIN	22	PIZZ STRINGS
66	TIMPANI	15	TIMPANI
67	VIOLIN 2	25	VIOLIN
68	R.GUITAR 2	58	ROCK GUITAR
69	R.GUITAR 3	58	ROCK GUITAR
70	R.GUITAR 4	60	MUTE GUITAR
71	PEDAL STEEL GUI	56	FOLK GUITAR
72	12 STRING GUITAR	56	FOLK GUITAR
73	CLASSIC GUITAR	55	CLASSIC GUITAR
74	MANDOLIN	62	MANDOLIN
75	SITAR	63	SITAR
76	KOTO	64	KOTO
77	SHAMISEN	65	SHAMISEN
78	PIZZ. STRINGS	22	PIZZ. STRINGS
79	ELECTRIC BASS 2	69	ELEC. BASS 2
80	ELECTRIC BASS 3	71	FRETLESS BASS
81	WOOD BASS 2	72	SYNTH BASS 1
82	SYNTH BASS 2	47	SYNTH BRASS 2
83	WOW TRUMPET	39	TRUMPET
84	TUBA	43	TUBA
85	SYNTH REED 2	76	SOFT CLOUD
86	SYNTH BASS 2	74	SYNTH BASS 3
87	FLUGELHORN	42	HORN
88	RECORDER	30	RECORDER
89	OCARINA	54	WHISTLE
90	ORCHESTRA HIT	99	ORCHESTRA HIT
91	SAMBA WHISTLE	54	WHISTLE
92	BRASS ENSEMBLE	44	BRASS ENSEMBLE
93	WOODWIND ENSEM.	31	CLARINET
94	HUMAN VOICE 1	52	HUMAN VOX
95	HUMAN VOICE 2	53	HUSKY
96	HUMAN CHORUS	52	HUMAN VOX
97	KAZOO	33	BASOON
98	MUSIC SAW	75	HOLLOW SYNTH
99	SIN WAVE	28	FLUTE
100	—	14	BAMBOO MARIMBA
101	—	18	GAMELAN
102	—	24	SYNTH STRINGS 2
103	—	80	AQUA
104	—	81	LANDSCAPE
105	—	82	METALLIC
106	—	83	CRYSTAL
107	—	35	SAXOPHONE 2
108	—	45	POWER BRASS
109	—	75	HOLLOW SYNTH
110	—	76	SOFT CLOUD
111	—	77	DAYBREAK
112	—	78	SUNBEAM
113	—	79	ARABESQUE
114	—	85	GLASS BELLS
115	—	86	SYNTH BELLS
116	—	87	BELL FOUNTAIN
117	—	89	SYNTHBRASS
118	—	90	AFRICAN PERCUSS.
119	—	91	AFTER BURNER
120	—	98	WAVE
121	—	92	FUNNY
122	—	93	MONSTER
123	—	94	HA HA HA!
124	—	95	EMERGENCY
125	—	96	RACING CIRCUIT
126	—	97	STORM
127	—	XX	NO CHANGE

● STANDARD VOICE MODE RHYTHM INSTRUMENT CHART

MIDI IN			PSR-4500
NO.	KEY	RHYTHM INSTRUMENT	RHYTHM INSTRUMENT
33	A ₀		REV. CYMBAL
34	A [#] ₀	—	HIGH COWBELL
35	B ₀	—	CRASH CYMBAL HIGH
36	C ₁	—	HH PEDAL
37	C [#] ₁	—	TRIANGLE CLOSE
38	D ₁	SYNTH SNARE	S.D GATE ECHO
39	D [#] ₁	—	TRIANGLE OPEN
40	E ₁	SYNTH TOM BASS	SYNTH TOM LOW
41	F ₁	SYNTH TOM LOW	SYNTH TOM LOW
42	F [#] ₁	SYNTH TOM MID	SYNTH TOM MID
43	G ₁	SYNTH TOM HI	SYNTH TOM HI
44	G [#] ₁	BASS DRUM 2	BASS DRUM LOW
45	A ₁	BASS DRUM 1	BASS DRUM
46	A [#] ₁	RIM SHOT 2	RIM SHOT
47	B [#] ₁	BASS TOM	LOW TOM
48	C ₂	LOW TOM	LOW TOM
49	C [#] ₂	SNARE HI	SNARE DRUM LIGHT
50	D ₂	MID TOM	MID TOM
51	D [#] ₂	RIM SHOT	RIM SHOT
52	E ₂	SNARE LO	SNARE DRUM HEAVY
53	F ₂	HI TOM	HI TOM
54	F [#] ₂	HAND CLAP	HAND CLAP
55	G ₂	COWBELL	COWBELL LOW
56	G [#] ₂	SHAKER (CABASA)	CABASA
57	A ₂	HI-HAT CLOSE	HI-HAT CLOSE
58	A [#] ₂	BRUSH HIT	HI-HAT CLOSE
59	B ₂	HI-HAT OPEN	HI-HAT OPEN
60	C ₃	CRASH CYMBAL	CRASH CYMBAL LOW
61	C [#] ₃	SPLASH CYMBAL	RIDE CYMBAL
62	D ₃	RIDE CYMBAL CUP	RIDE CYMBAL CUP
63	D [#] ₃	RIDE CYMBAL	RIDE CYMBAL
64	E ₃	CONGA LOW	CONGA LOW
65	F ₃	CONGA HI OPEN	CONGA HI
66	F [#] ₃	CONGA HI MUTE	CONGA MUTE
67	G ₃	BONGO LOW	SURDO
68	G [#] ₃	BONGO HI	SURDO
69	A ₃	TIMBALES LOW	TIMBALES LOW
70	A [#] ₃	TIMBALES HIGH	TIMBALES HIGH
71	B ₃	TAMBOURINE	TAMBOURINE
72	C ₄	CASTANET	RIM SHOT
73	C [#] ₄	CLAVES	CLAVES
74	D ₄	AGOGO LOW	AGOGO LOW
75	D [#] ₄	AGOGO HI	AGOGO HI
76	E ₄	CUICA LOW	CUICA LOW
77	F ₄	CUICA HI	CUICA HI
78	F [#] ₄	WHISTLE	WHISTLE LOW
79	G ₄	BRUSH	CABASA
80	G [#] ₄	—	WHISTLE HIGH
81	A ₄	—	BIRD 1
82	A [#] ₄	—	BIRD 2
83	B ₄	—	BIRD 3
84	C ₅	—	CAR HORN
85	C [#] ₅	—	BREAKING GLASS
86	D ₅	—	EXPLOSION
87	D [#] ₅	—	LOW SCRATCH
88	E ₅	—	HIGH SCRATCH
89	F ₅	—	MALE LAUGH
90	F [#] ₅	—	CHIPMARK LAUGH
91	G ₅	—	FEMALE "YEAH!"
92	G [#] ₅	—	MALE "YEAH!"
93	A ₅	—	MALE "HA!"
94	A [#] ₅	—	KABUKI "WO!"
95	B ₅	—	TSUZUMI DRUM
96	C ₆	—	APPLAUSE

※ 53、54ページの表の左側は標準音色、右側はパネル上の音色です。

※ □ でかこまれた音色は、標準音色とパネル上の音色が異なります。